



インストール

Snap Creator Framework

NetApp
January 20, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/snap-creator-framework/installation/concept_scf_component_server.html on January 20, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

インストールガイド	1
Snap Creator Framework の動作	1
Snap Creator のアーキテクチャ	2
ONTAP Snap Creatorのインストール前の要件	4
Snap Creator のインストールおよび構成の要件	5
Snap Creator ソフトウェアのダウンロード	6
Data ONTAP 用 Snap Creator ユーザの作成	7
Snap Creator ホストに Java をインストールしています	9
Snap Creator サーバおよびエージェントホストの時間の同期	10
Domino プラグインの設定	10
Snap Creator サーバをインストールします	13
Windows ホストに Snap Creator サーバをインストールする	13
UNIX ベースのシステムへの Snap Creator サーバのインストール	16
Snap Creator エージェントをインストールします	20
Windows への Snap Creator エージェントのインストール	20
UNIX ベースのシステムへの Snap Creator エージェントのインストール	23
インストール後に Snap Creator エージェントのポートを変更する	26
Snap Creator をアップグレードします	26
ジョブ監視のサイズを確認しています	27
Snap Creator 3.6 より前のリリースからのアップグレード	27
Snap Creator 3.6.x からのアップグレード	28
Snap Creator 4.0.x からアップグレードする	35
Snap Creator 4.1.x からのアップグレード	43
Snap Creator 4.3.x からのアップグレード	49
Snap Creator をアンインストールしています	49
Windows での Snap Creator のアンインストール	49
UNIX 上での Snap Creator のアンインストール	50
CLI リファレンス	52
clustered Data ONTAP で Snap Creator ユーザのロールを作成するための CLI コマンド	52

インストールガイド

このガイドでは、Snap Creator 4.3.3 のインストール方法とセットアップ方法について説明します。

Snap Creator Framework の動作

Snap Creator Framework を使用すると、あらかじめパッケージ化されたカスタムプラグインを使用できるため、Windows および UNIX（AIX、HP-UX、Linux、Solaris）のさまざまな環境で、さまざまなサードパーティ製アプリケーション、データベース、ハイパーバイザーのデータ保護を標準化し、簡易化できます。

Snap Creator は、Snapshot、SnapVault、Open Systems SnapVault、SnapMirror の各機能に加え、NetApp Management Console のデータ保護機能、Operations Manager コンソール、FlexClone を活用することで、以下の機能を実現します。

- アプリケーションと整合性のあるデータ保護

重要な情報をバックアップするための一元化された解決策。既存のアプリケーションアーキテクチャと統合して、データの整合性を確保し、運用コストを削減します。

- 拡張性

モジュラ型アーキテクチャとポリシーベースの自動化により、迅速な統合を実現します。

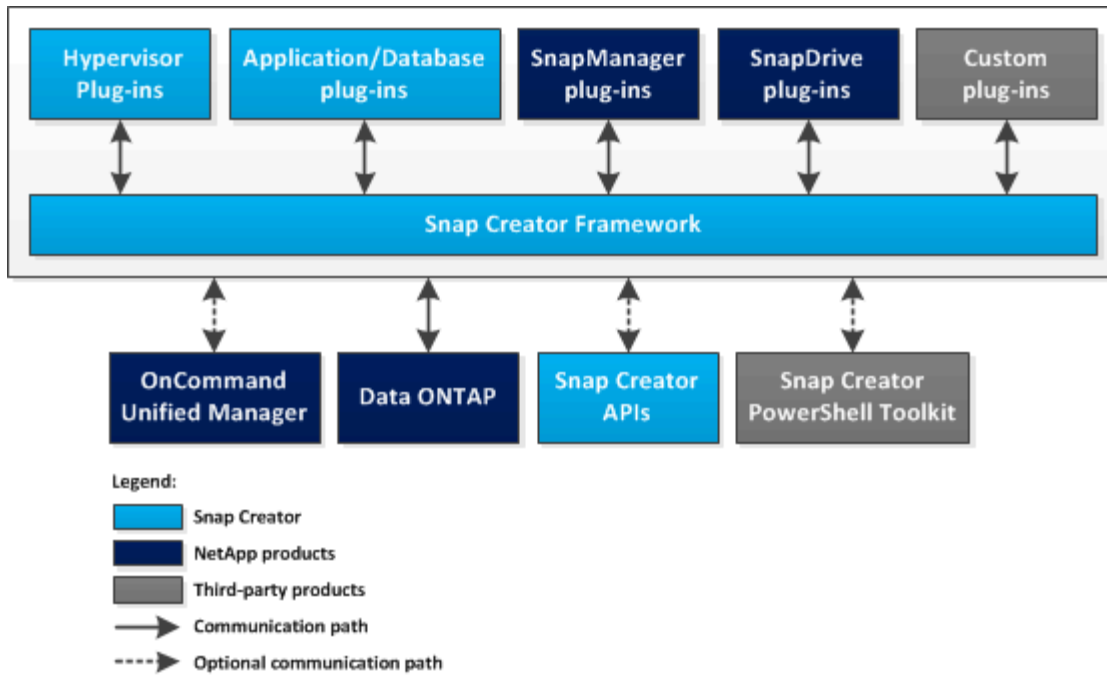
- クラウドへの対応

オペレーティングシステムに依存しない Snap Creator 機能。物理プラットフォームと仮想プラットフォームをサポートし、IT サービス環境およびクラウド環境との相互運用性を実現します。

- クローニング機能

スペース効率に優れたデータクローニングは、開発とテストを目的としてサポートされています。

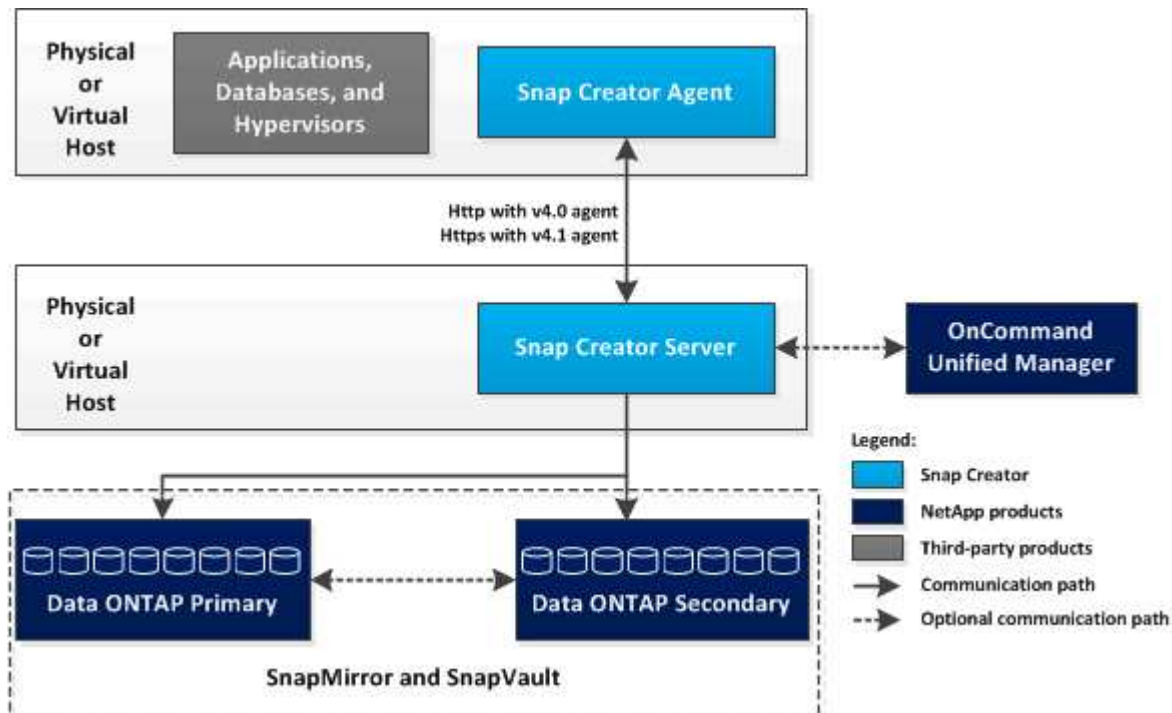
次の図は、Snap Creator Framework のコンポーネントを示しています。



Snap Creator のアーキテクチャ

Snap Creator のサーバおよびエージェントは包括的なアーキテクチャを採用しており、Snap Creator サーバ、Snap Creator エージェント、プラグインの 3 つの主要コンポーネントで構成されています。

Snap Creator は、以下の概略図に示すように、さまざまなテクノロジーや製品と連携および統合されます。



概略図に示されているネットアップのソフトウェア製品はオプションです。ただし、Snapshot テクノロジーを除き、Snap Creator Framework が機能するために他のソフトウェア製品は必要ありません。

Snap Creator サーバ

Snap Creator 操作は、Snap Creator サーバによって開始されます。

通常、Snap Creator サーバは物理ホストまたは仮想ホストにインストールされます。サーバは、Snap Creator の GUI、およびジョブ、スケジュール、ユーザ、ロール、プロファイルに関する情報の格納に必要なデータベースをホストし、構成ファイル、およびプラグインのメタデータ。Snap Creator 内ではサーバが scServer に短縮されることがあります。

サーバは、Snap Creator エージェントを通じて、休止または休止解除の処理をサポート対象のアプリケーション（データベース、Eメール、ハイパーバイザー、またはその他のカスタムアプリケーション）に送信します。サーバと Snap Creator エージェントの間の通信は、デフォルトでポート 9090 で行われますが、ニーズに合わせてポートをカスタマイズできます。

Snap Creator サーバは、デフォルトで Data ONTAP API 呼び出しを使用してストレージシステムやその他のネットアップソフトウェア製品と通信します。Snap Creator サーバからストレージシステムへのコマンドは、ポート 80 またはポート 443 経由で実行され、Snapshot、SnapVault、および SnapMirror タイプのすべての機能が処理されてから、ストレージデバイスまたはプールに変更がコミットされます。

Snap Creator サーバは、Unified Manager API を介して Active IQ Unified Manager と通信します。

- 関連情報 *

" [『 Snap Creator Framework 4.3.3 Administration Guide 』](#) "

Snap Creator エージェント

Snap Creator エージェントは、通常、アプリケーションまたはデータベースがインストールされているホストと同じホストにインストールします。Agent は、プラグインが配置されている場所です。Snap Creator 内でエージェントが scAgent に短縮されることがあります。

エージェントは、Snap Creator サーバから、アプリケーションの休止および休止解除コマンド、およびその他の PRE / POST コマンドを実行できます。プラグインを使用する場合は、Snap Creator エージェントが必要です。

" [『 Snap Creator Framework 4.3.3 Administration Guide 』](#) "

アプリケーション統合用のプラグイン

プラグインを使用すると、アプリケーションやデータベースを整合性のある状態にすることができます。Snap Creator には、すでにバイナリファイルに含まれているプラグインがいくつか含まれているため、追加のインストールは必要ありません。

サポートされるアプリケーションのタイプには、データベース、Eメール、ハイパーバイザー、またはカスタムアプリケーションがあります。Snap Creator でサポートされているプラグインは次のとおりです。

- アプリケーションとデータベースのプラグイン：
 - DB2
 - IBM Domino （ Domino ）

- MaxDB
- MySQL



MySQL プラグインは、複数データベースのバックアップおよびリストア処理はサポートしていません。

- Oracle の場合
- SAP ハイパフォーマンス分析アプライアンス（HANA）
- Sybase Adaptive Server Enterprise（ASE）
- SnapManager プラグイン：
 - SnapManager for Microsoft Exchange の略
 - SnapManager for Microsoft SQL Server の略
- ハイパーバイザープラグイン：
 - Citrix XenServer
 - Red Hat Kernel-Based Virtual Machine（KVM）
 - VMware（個々の仮想マシンのバックアップ用の vSphere、vApp バックアップ用の vCloud Director）

カスタム（「コミュニティ」とも呼ばれる）プラグインは開発者コミュニティによって記述され、Snap Creator で有効にすることはできますが、サポートされていません。このプラグインは、Snap Creator が提供するインターフェイスを活用することで、開発者はターゲットアプリケーションに開発作業を集中させることができます。

詳細については、を参照してください "[Snap Creator Framework のディスカッションコミュニティフォーラム](#)" サイト

"『[Snap Creator Framework 4.3.3 Administration Guide](#)』"

ONTAP Snap Creatorのインストール前の要件

Snap Creator をインストールする前に、システムライセンス、ソフトウェア、およびハードウェアの要件を考慮する必要があります。

また、Snap Creator をインストールする前に、次の作業を実行してください。

- Snap Creator ソフトウェアをダウンロードします。
- Data ONTAP ユーザを作成します。
- Snap Creatorサーバおよびエージェントのホストに、Oracle JavaまたはOpenJDK Java Runtime Environment（JRE）1.8 Update 72以降のバージョンをインストールします。
- Snap Creator サーバおよびエージェントホストの時間を同期します。
- IBM Domino プラグインの設定を行います（Domino プラグインを使用している場合のみ必要）。
- UNIX 環境用の Secure Sockets Layer（SSL）ライブラリを追加します（UNIX プラットフォームで CLI を使用して Snap Creator を実行する場合のみ必要）。

詳細については、『Snap Creator Framework Administration Guide』の「_Troubleshooting_Section」を参照してください。

Snap Creator のインストールおよび構成の要件

Snap Creator Framework をインストールする前に、ライセンス、ソフトウェア、およびハードウェアに関する特定のインストール要件と設定要件について理解しておく必要があります。

ライセンス要件

Snap Creator にはライセンスは必要ありませんが、Snap Creator の使用中に実行する操作によっては、次のライセンスが必要になる場合があります。

- FlexClone （ボリュームクローニング）
- Active IQ Unified Manager コアパッケージ（ネットアップ管理コンソールのデータ保護機能および Operations Manager コンソール用）
- Open Systems SnapVault （OSSV アクション用）
- SnapDrive （SnapDrive アクション用）
- snapmirror （SnapMirror 操作用）
- SnapRestore （リストア用）
- SnapVault （SnapVault アクション用）

オンラインの Interoperability Matrix を参照してください ["mysupport.netapp.com/matrix"](https://mysupport.netapp.com/matrix) サポートされているソフトウェアの詳細については、を参照してください。

ソフトウェア情報

環境によっては、次のソフトウェアが必要になる場合があります。

- Java （必須）



Snap Creator Framework 4.3.3 では OpenJDK と Oracle Java 1.8 Update 72 以降のみがサポートされます。

- Data ONTAP （必須）
- Microsoft .NET Framework の場合
- オペレーティングシステム：



現在サポートされているのは、米国ベースのオペレーティングシステムのみです。

- UNIX プラットフォーム：



Snap Creator では、すべての UNIX プラットフォームに対して Bash シェルのみがサポートされます。

- AIX の場合
- HP-UX
- Linux の場合
- Solaris の場合
- Microsoft Windows の場合
- Web ブラウザ：
 - Internet Explorer の略
 - Firefox の場合

オンラインの Interoperability Matrix を参照してください ["mysupport.netapp.com/matrix"](https://mysupport.netapp.com/matrix) サポートされているソフトウェアの詳細については、を参照してください。

ハードウェア要件

Snap Creator ハードウェアの要件は次のとおりです。

- Snap Creator サーバの要件：

ハードウェアコンポーネント	最小（ Minimum ）	（推奨）
プロセッサ	1 コア	4 コア、 2 GHz 以上
メモリ（ Snap Creator およびオペレーティングシステム用）	2GB の RAM	4GB の RAM
ディスクスペース	5 GB	50GB 以上（保存するログの数に基づく）

- Snap Creator エージェントの要件：

プラグインが配備されていない場合、またはパッケージ化されたプラグインが使用されている場合は、最低 256 MB のメモリが必要です。

パッケージ済みのプラグインでは、追加のメモリ要件は必要ありません。その他のプラグインの要件は、このほかにもあります。

Snap Creator ソフトウェアのダウンロード

Snap Creator ソフトウェアをネットアップサポートサイトからダウンロードします。Snap Creator は、 Snap Creator Framework の「ソフトウェアのダウンロード」セクションに記載されています。

1. ネットアップサポートサイトのソフトウェアページに移動します。

Snap Creator は、「 * Downloads * > * Software * 」セクションに * Snap Creator Framework * と表示されます。

2. プラットフォームを選択し、* Go * をクリックします。
3. ダウンロードする Snap Creator のバージョンを選択し、* View & Download * をクリックします。
4. ソフトウェアのダウンロード手順で、* 続行 * をクリックします。
5. エンドユーザライセンス契約を読んで同意します。
6. オペレーティングシステムとソフトウェアパッケージのビットレベルを選択します。

◦ 関連情報 *

"ネットアップサポートサイト : mysupport.netapp.com"

Data ONTAP 用 Snap Creator ユーザの作成

Snap Creator をインストールする前に、Data ONTAP 用の Snap Creator ユーザを作成する必要があります。Snap Creator ユーザを作成するプロセスは、システムで Data ONTAP 7-Mode と clustered Data ONTAP のどちらを実行しているかによって異なります。

Data ONTAP 7-Mode 用 Snap Creator ユーザを作成します

Snap Creator は、ストレージシステムとの通信に Data ONTAP API を使用しています。ユーザアカウントに必ず Snap Creator のみへのアクセスが許可されるようにするには、各ストレージコントローラ上に新しいロール、グループ、およびユーザを作成します。ロールがグループに割り当てられ、そのグループにユーザが含まれます。これにより、アクセスが制御され、Snap Creator アカウントの範囲が制限されます。

Snap Creator がインストールされているストレージコントローラごとに、この手順を 1 回実行する必要があります。

Data ONTAP の CLI (SSH、コンソール接続、Telnet) を使用して 7-Mode の Data ONTAP 用の Snap Creator ユーザを作成するには、次の手順を実行します。



このドキュメントからコマンドを直接コピーして貼り付けることは避けてください。改行や返却が原因で誤って文字が転送される可能性があります。この手順からコマンドをコピーしてテキストエディタに貼り付け、コマンドを確認してから、CLI に入力します。

1. 次のコマンドを実行して、ストレージシステム上で Snap Creator に必要な権限を定義するロールを作成します。

```
useradmin role add rolename -a login-\*,api-snapshot-\*,api-system-\*,
api-ems-\*,api-snapvault-\*,api-snapmirror-\*,api-volume-\*,
api-lun-\*,api-cg-\*,api-nfs-\*,api-file-\*,api-license-\*,
api-net-\*api-clone-\*, api-options-get, api-wafl-sync
```



この手順に示すコマンドには、Snap Creator が使用するすべての API ロールが含まれています。ただし、必要なロールだけを指定することでユーザアクセスを制限できます (SnapMirror を使用しない場合、api-snapmirror- * は不要です)。

```
useradmin role add sc_role -a login-*,api-snapshot-*,api-system-*,api-ems-*,api-snapvault-*,api-snapmirror-*,api-volume-*,api-lun-*,api-cg-*,api-nfs-*,api-file-*,api-license-*,api-net-*,api-clone-*,api-options-get,api-wafl-sync
```

2. 次のコマンドを実行して、ストレージシステム上に新しいグループを作成し、作成したロールを割り当てます。

```
useradmin group add groupname -r rolename
```

```
useradmin group add snap_creator_group -r snap_creator_role
```

3. 次のコマンドを実行してユーザアカウントを作成します。

```
useradmin user add username -g groupname
```

```
useradmin user add snap_creator_user -g snap_creator_group
```

4. アカウントのパスワードを入力します。

Snap Creator の構成ファイルを作成する場合は、この制限されたアカウントを使用してください。

clustered Data ONTAP の Snap Creator ユーザを作成しています

clustered Data ONTAP の場合、Snap Creator のユーザを作成する必要があります。ただし、作成するユーザのタイプは、clustered Data ONTAP のバージョンによって異なります。ユーザには、クラスタユーザと Storage Virtual Machine (SVM) ユーザの 2 種類があります。

使用している Data ONTAP のバージョンに対応する、_Snap Creator Framework Administration Guide_ で定義されている適切なロールを持つ次のユーザを作成します。

- clustered Data ONTAP 8.2 より前の Data ONTAP リリース：クラスタおよび SVM ユーザを作成
- clustered Data ONTAP 8.2 以降：SVM ユーザを作成します。

セキュリティを強化するには、Snap Creator 専用の Data ONTAP ユーザおよびロールを作成する必要があります。または、admin や vsadmin など、他のユーザアカウントを使用することもできます。

CLI を使用した Snap Creator ロールの作成の詳細については、関連資料を参照してください。

どちらのタイプのユーザも Data ONTAPI ライブラリにアクセスする必要があります。また、バージョンに関係なく、clustered Data ONTAP の管理 LIF も必要です。

2 人のユーザーは互換性がありません。たとえば、クラスタユーザは、Snapshot コピーの作成など、特定の操作を実行するのに必要な API にはアクセスできません。これは、デフォルトのクラスタ管理者アカウントを使用する場合にも当てはまります。SVM アカウントが Snap Creator を正常に動作させるには、* vsadmin * ロールまたはお客様が作成したロールを使用する必要があります。

この手順は、Snap Creator が使用されている SVM およびクラスタごとに 1 回実行する必要があります。

以降の手順では admin ロールと vsadmin ロールを使用しますが、これらのロール名を作成したロールに置き換えることができます。



このドキュメントからコマンドを直接コピーして貼り付けしないでください。エラー（改行やハードリターンによって誤って転送された文字など）が発生する可能性があります。この手順からコマンドをコピーしてテキストエディタに貼り付け、コマンドを確認してから、CLI に入力します。

1. 次のコマンドとユーザパスワードを入力して、SVM_nameSVM に適切なロール（vsadmin またはユーザ用に作成されたロール）で SVM ユーザ svm_username01 を作成し、ONTAPI ライブラリへのアクセスを有効にします。

```
security login create -username svm_username01
-vserver svm_name -application ontapi
-authmethod password -role vsadmin

Please enter a password for user 'svm_username01':
Please enter it again:
```

2. _（clustered Data ONTAP 8.2 より前のバージョンの場合のみ）_ 次のコマンドとユーザパスワードを入力してクラスタユーザを作成します。

```
security login create -username svm_username02
-vserver svm_clustername -application ontapi
-authmethod password -role admin

Please enter a password for user 'svm_username02':
Please enter it again:
```

。関連情報 *

[clustered Data ONTAP で Snap Creator ユーザのロールを作成するための CLI コマンド](#)

Snap Creator ホストに Java をインストールしています

OpenJDK と Oracle Java Runtime Environment（JRE）1.8 Update 72 以降が、すべての Snap Creator サーバとエージェントホストにインストールされている必要があります。Transport Layer Security（TLS）の脆弱性を回避するため、Snap Creator サーバおよびエージェントホストに JRE 1.8 Update 72 を以降のバージョンにインストールす

ることを推奨します。

1. 各 Snap Creator サーバまたは Snap Creator エージェントホストに JRE をダウンロードしてインストールします。

Java と Snap Creator のビットレベル（32 ビットまたは 64 ビット）は同じである必要があります。

必要に応じて、から Java をダウンロードします ["すべてのオペレーティングシステム用の Java のダウンロード"](#) ページ

2. JRE をインストールしたら、Java のバージョンとビットレベルを確認します。 `java -version`

```
C:\Documents and Settings\Administrator>java -version
java version "1.7.0_04-ea"
Java(TM) SE Runtime Environment (build 1.7.0_04-ea-b01)
Java HotSpot(TM) Client VM (build 23.0-b03, mixed mode, sharing)
```

コマンドの出力に、インストールされている Java のバージョンが表示されます。ビットレベルが表示されない場合（前述の例のように）、32 ビットのインストールです。

Snap Creator サーバおよびエージェントホストの時間の同期

Snap Creator をインストールする前に、Snap Creator サーバホストの時刻とエージェントホストの時刻が同期されていることを確認してください。これを行うには、ホストの時刻を同じ Network Time Protocol（NTP；ネットワークタイムプロトコル）サーバと同期します。

詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- clustered Data ONTAP：お使いのバージョンの Data ONTAP に対応した『clustered Data ONTAP ソフトウェアセットアップガイド』を参照してください。特に、システム時間の検証とクラスタ全体のシステム時間の同期に関する情報を参照してください。
- Data ONTAP 7-Mode - 技術情報アーティクル 1011954 「How to setup NTP time synchronization at」を参照してください ["Data ONTAP 7-Mode で NTP 時間の同期を設定する方法"](#)。

Domino プラグインの設定

特定の設定を行う必要があるのは、Snap Creator エージェントのインストールに含まれている IBM Domino プラグインを使用する場合のみです。



Snap Creator サーバと Snap Creator エージェントは、異なるホストにインストールすることを推奨します。

オペレーティングシステムに応じて、IBM Domino プラグイン用の Snap Creator エージェントをインストールする前に、これらの設定を行う必要があります。

- Windows 環境の場合は、環境変数に Domino パスを追加する必要があります。

- UNIX 環境の場合は、Domino の共有オブジェクトファイルにリンクするシンボリックリンクを作成する必要があります。

Windows 固有の設定：環境変数へのパスの追加

Windows に Snap Creator エージェントをインストールする場合は、Domino バイナリファイルへのパスを Windows の環境変数に追加する必要があります。

1. Windows OS の詳細設定（ * My Computer * > * Properties * > * Advanced * > * Environment Variables * など）にアクセスし、Path 変数に Domino パスを追加します。



システム変数の変更の詳細については、Windows オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

Snap Creator エージェントのインストール後に環境変数に Domino パスを追加した場合は、Snap Creator エージェントサービスを再起動する必要があります。たとえば、Snap Creator エージェントがインストールされているホストでコマンドプロンプトを開き、次のコマンドを入力します。

```
sc stop SnapCreatorAgentService
sc start SnapCreatorAgentService
```

UNIX 固有の設定：シンボリックリンクの作成

Snap Creator エージェントを UNIX オペレーティングシステム（AIX、Linux、Solaris）にインストールする場合、IBM Domino プラグインが正常に動作するためには、Domino の共有オブジェクトファイルにリンクするシンボリックリンク（symlinks）を 3 つ作成する必要があります。

インストール手順は、オペレーティングシステムによって多少異なります。お使いのオペレーティングシステムに対応する手順を参照してください。



Domino は HP-UX オペレーティングシステムをサポートしていません。

Linux ホストおよび **Solaris** ホストで **Domino** プラグインのシンボリックリンクを作成する

Linux ホストおよび Solaris ホスト上に Domino プラグインのシンボリックリンクを作成する場合は、この手順を実行する必要があります。

このドキュメントからコマンドを直接コピーして貼り付けしないでください。エラー（改行やハードリターンによって誤って転送された文字など）が発生する可能性があります。コマンドをコピーしてテキストエディタに貼り付け、コマンドを確認してから、CLI コンソールに入力します。



以降の手順で示すパスは 32 ビットシステムを参照してください。64 ビットシステムでは、/usr/lib ではなく /usr/lib64 への simlinks を作成する必要があります。

1. 次のファイルの /usr/lib へのリンクを追加します。

- libxmlproc.so
- libndgts.so
- libnote.so
- libgsk8iccs.so (Domino 9.0 以降のみ) シンボリックリンクを作成する一般的な方法は ln コマンドを使用することです

ln -s /path/to /source_file /usr/lib/linked_file

+ 場所:

- -s は 'シンボリック・リンクを作成するようにオペレーティング・システムに指示します
- /path/to /source_file は、ファイル名を含む Domino ライブラリファイルの 1 つへのパスです。
- linked_file は、リンクされているファイルの名前です。

```
ln -s /opt/ibm/domino/notes/latest/linux/libxmlproc.so
/usr/lib/libxmlproc.so
ln -s /opt/ibm/domino/notes/latest/linux/libndgts.so
/usr/lib/libndgts.so
ln -s /opt/ibm/domino/notes/latest/linux/libnotes.so
/usr/lib/libnotes.so
ln -s /opt/ibm/domino/notes/latest/linux/libgsk8iccs.so
/usr/lib/libgsk8iccs.so
```

2. 手順 1 に記載されたファイルへのパスを確認します。

AIX ホスト上で **Domino** プラグイン用のシンボリックリンクを作成する

AIX ホスト上の Domino プラグインのシンボリックリンクを追加するには、この手順を実行する必要があります。

このドキュメントからコマンドを直接コピーして貼り付けしないでください。エラー（改行やハードリターンによって誤って転送された文字など）が発生する可能性があります。コマンドをコピーしてテキストエディタに貼り付け、コマンドを確認してから、CLI コンソールに入力します。



以降の手順で示すパスは 32 ビットシステムを参照してください。64 ビットシステムでは、/usr/lib ではなく /usr/lib64 への simlinks を作成する必要があります。

1. 次のファイルの /usr/lib へのリンクを追加します。

- libxmlproc_r.a
- libndgts_r.a
- libnote_r.a
- libgsk8iccs_r.a (Domino 9.0 以降のみ) シンボリックリンクを作成する一般的な方法は ln コマンドを使用することです

ln -s /path/to /source_file /usr/lib/linked_file

+ 場所：

- -s は 'シンボリック・リンクを作成するようにオペレーティング・システムに指示します
- /path/to /source_file は、ファイル名を含む Domino ライブラリファイルの 1 つへのパスです。
- linked_file は、リンクされているファイルの名前です。

```
ln -s /opt/ibm/domino/notes/latest/ibmpow/libxmlproc_r.a
/usr/lib/libxmlproc_r.a
ln -s /opt/ibm/domino/notes/latest/ibmpow/libndgts_r.a
/usr/lib/libndgts_r.a
ln -s /opt/ibm/domino/notes/latest/ibmpow/libnotes_r.a
/usr/lib/libnotes_r.a
ln -s /opt/ibm/domino/notes/latest/linux/libgsk8iccs.so
/usr/lib/libgsk8iccs_r.a
```

2. 手順 1 に記載されたファイルへのパスを確認します。

この例のコマンドでは、AIX のデフォルトパスを使用していますが、インストール環境によって異なる場合があります。

Snap Creator サーバをインストールします

Snap Creator サーバは、Windows ホストと UNIX ホストにインストールできます。

一般的なインストールでは、Snap Creator サーバと Snap Creator エージェントは別々のホストにインストールします。ただし、場合によっては、サーバとエージェントを同時にインストールできます。このセットアップでは、インストール時にサーバのみが設定されます。

Windows ホストに Snap Creator サーバをインストールする

Windows インストーラを使用して、Snap Creator サーバを Windows ホストにインストールできます。

- JRE 1.8 Update 72 以降がインストールされている必要があります。
- インストールを実行するユーザには、インストールを実行するための管理者レベルの権限が必要です。
- Snap Creator サーバのデフォルトのポートは 8443 である必要があります。

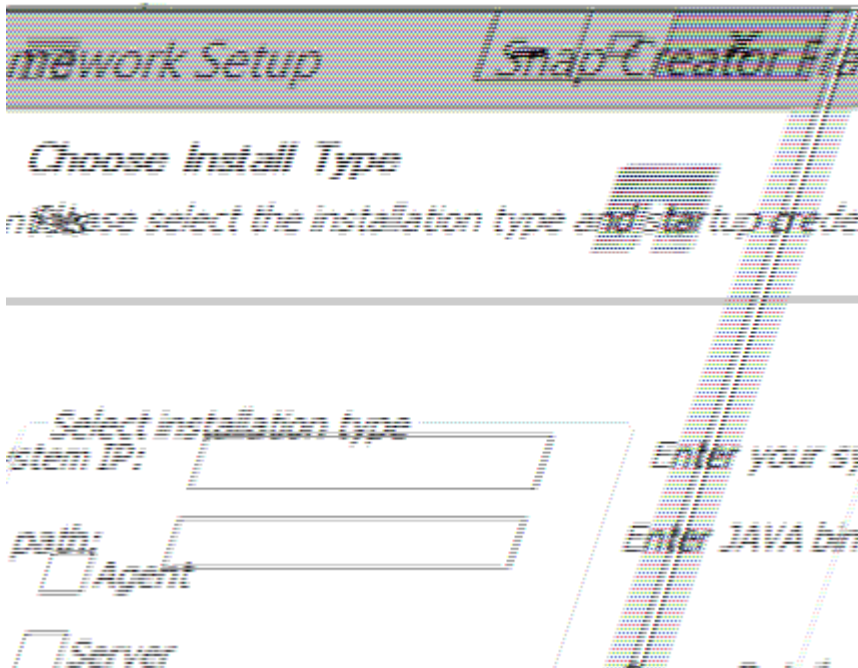
netstat または類似のツールを使用して、使用するネットワークポート（ポートで HTTPS がサポートされている場合）が使用可能であり、まだ使用されていないことを確認できます（例：Windows：netstat -na|find "8443"）。

- Snap Creator をダウンロードしておく必要があります。
 - a. Snap_Creator_Frameworkrelease-Windowsversion.exe ファイルをダブルクリックします。

Snap Creator インストーラを起動するには、SnapCreator_Framework4.1.0 -Windows64.exe を使用

します。

- b. Welcome（ようこそ）ページで、*Next（次へ）*をクリックしてインストールを開始します。
- c. ライセンス契約の条項を読み、同意します。
- d. [インストールタイプの選択*] ページで、さまざまなインストールタイプに合わせて設定を変更し、[次へ*]をクリックします。



- *インストールタイプ* を選択します

「*サーバー*」を選択します。Snap Creator サーバと Snap Creator エージェントは、両方とも同じシステムにインストールすることができます。

- *サービスとしてサーバーを起動*

このオプションを選択すると、インストール処理の完了直後に snapcreatorserverservice サービスが自動的にインストールされて開始されます。選択されていない場合、*サーバーポート* フィールドは無効になります。



このオプションを選択しない場合、サービスはインストールされないため、コマンドプロンプトからバッチスクリプトを実行して Snap Creator サーバを手動で起動する必要があります。

- *システム IP を入力します*

Snap Creator サーバまたは Snap Creator エージェントがインストールされているシステムの IP アドレスを指定する場合は、このオプションを選択します。このオプションは、Snap Creator のインストール時に SSL 証明書を生成する場合に使用します。

- *Java bin path* を入力します

keytool ユーティリティを見つけるための Java ビンパスを指定するには、このオプションを選択します。keytool は、Snap Creator のインストール時に SSL 証明書を生成するために使用しま

す。

▪ * サーバーポート *

デフォルトのポート 8443 を受け入れるか、ポート番号を指定します。

- e. [* プロファイル設定 *] ページを設定し、[次へ *] をクリックします。

Profile Setup * ページに入力した情報は、Snap Creator の GUI に必要なプロファイルを設定するために使用されます。

▪ * ストレージコントローラのシリアル番号 *

このパラメータはオプションです。いずれかのストレージコントローラのシリアル番号を入力します。この情報を入力すると、コントローラのシリアル番号が Snap Creator のプロパティファイルに組み込まれ、サポートとログの出力に含まれます。この情報は、今後発生する問題のトラブルシューティングに役立ちます。

▪ * ユーザー名 *

Snap Creator サーバの管理者の名前を入力します。

▪ * パスワードと確認 *

Snap Creator サーバ管理者のパスワードを入力します。

▪ * ジョブモニタを有効にする *

ジョブ監視を有効にする場合は、* ジョブ監視を有効にする * チェックボックスをオンにします。ジョブモニタは、Snap Creator によって実行されるすべてのジョブおよびジョブのステータスを監視する GUI 内の個別のセクションです。

▪ * ジョブログサイズ *

ジョブログの履歴に保存するジョブの数を入力します。デフォルトは「100」です。サイズは1～1000です。



ジョブログサイズ * に指定できる最大値は 10、000 ですが、最大値として 1000 を指定することを推奨します。

- a. [Choose Install Location] * ページで、Snap Creator のインストールパスを入力するか、デフォルトのオプション（C : \Program Files\NetApp\SnapCreator_Framework）を受け入れ、[Next] をクリックします。
- b. [スタート] メニューから [フォルダ ...] を選択し、Windows の [スタート] メニューに Snap Creator が表示されるフォルダをカスタマイズするか、デフォルトのフォルダを選択して、[* インストール *] をクリックします。
- c. インストールが完了したら、「* 次へ *」をクリックします。

インストールオプションでサービスを選択した場合は、Snap Creator サーバのサービスインストール時にコマンドプロンプトが表示されます。このプロセスは既存のサービスの開始を試みます。そのため、この手順の一部としてエラーメッセージが表示されることがよくあります。

- d. [完了] をクリックして、Windows インストーラを閉じます。
- e. 指定したポート上のローカルホストに移動して、Snap Creator Framework の GUI の起動を検証します。

HTTPS を使用して接続する必要があります。接続が HTTPS 接続に自動的にリダイレクトされず、GUI が機能しません。

• 関連情報 *

[Snap Creator ホストに Java をインストールしています](#)

[Snap Creator ソフトウェアのダウンロード](#)

[コマンドプロンプトからサーバーを起動します](#)

コマンドプロンプトからサーバーを起動します

バッチスクリプト（scServer.bat）を実行して、コマンドプロンプトから Snap Creator サーバを手動で起動することができます。

通常、インストール時に [サービスとしてサーバーを開始] オプションを選択しなかった場合にのみ、この手順に従う必要があります。

また、Windows タスクスケジューラを使用して、起動時に実行するバッチスクリプト（scServer.bat）のスケジュールを設定することもできます。Windows タスクスケジューラの使用の詳細については、Windows オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

バッチスクリプト（scServer.bat）は Snap Creator をフォアグラウンドで実行するため、コマンドプロンプトが開いているかぎり、Snap Creator サーバは実行を継続します。コマンドプロンプトを閉じると、Snap Creator サーバが終了します。バックグラウンドで実行するには、Snap Creator サーバサービスを使用する必要があります。

1. コマンドプロンプトを開き、次のコマンドを入力します。

```
cd \install_path\scServerrelease-version\bin\  
scServer.bat start
```

```
cd \Program Files\NetApp\Snap_Creator_Framework\scServer4.1.0\bin\  
scServer.bat start
```

UNIX ベースのシステムへの Snap Creator サーバのインストール

UNIX プラットフォーム（AIX、HP-UX、Linux、Solaris）の場合、Snap Creator のインストールプロセスでは、Snap Creator のソフトウェアパッケージ（Snap Creator サーバと Snap Creator エージェントの両方を含む .tar ファイル）を展開し、セットアップスクリプトを実行してサービスを開始し、ポートを検証します。

JRE 1.8 Update 72 以降がインストールされている必要があります。

インストールを実行するユーザーは、インストールを実行するための十分なアクセス権と権限を持っている必要があります。



初期セットアップを実行するには、root レベルの権限が必要です。

Snap Creator サーバのデフォルトのポートは 8443 です。netstat または類似のツールを使用して、使用するネットワークポートが HTTPS をサポートしており、使用可能で、まだ使用されていないことを確認できます（UNIX ホストの場合、「netstat -nap|grep 8443」と入力できます）。

Snap Creator をダウンロードしておく必要があります。

UNIX サービス（サーバおよびエージェント）機能は、Snap Creator サーバおよび Snap Creator エージェント用の起動スクリプトを提供します。起動スクリプトは UNIX シェルスクリプト（Bourne シェル）で記述されており、Snap Creator でサポートされているすべての UNIX 環境で実行できます。

1. ダウンロードした Snap Creatortar.gz ファイルを、Snap Creator サーバのインストール先にコピーします。

- a. サブディレクトリを作成します。mkdir snap_creator_directoryサブ ディレクトリを作成します。

```
mkdir snap_creator_directory
```

```
mkdir /SC_41
```

- a. 新たに作成したディレクトリに Snap Creatortar.gz ファイルをコピーします。

```
cp NetApp_Snap_Creator_Frameworkrelease-os.tar.gz  
/snap_creator_directory
```

```
cp NetApp_Snap_Creator_Framework4.1.0-Linux32.tar.gz  
/SC_41
```

2. Snap Creator Framework の .tar ファイルが格納されているディレクトリに移動し、ファイルを展開します。



UNIX 環境によっては、tar コマンドを入力する前にファイルを解凍しなければならない場合があります。

```
cd snap_creator_directory  
tar -xvf NetApp_Snap_Creator_Frameworkrelease-os.tar.gz
```

° snap_creator_directory は、Snap Creator のインストール先です。

- release は、 Snap Creator ソフトウェアパッケージの現在のリリースです。
- OS はオペレーティングシステムです。

```
cd /sc_41
tar -xvf NetApp_Snap_Creator_Framework4.1.0-Linux32.tar.gz
```

これにより、サーバとエージェントの両方のソフトウェアが抽出されます。通常、 Snap Creator サーバのみが設定されます。エージェントは通常、保護対象のデータベースまたはアプリケーションサーバ上に存在します。次の例を参照してください。

[+]

```
NetApp_Snap_Creator_Framework4.1.0-Linux32.tar.gz  scServer4.1.0
scAgent4.1.0
```

3. Snap Creator の初期セットアップを実行します。

```
cd scServer*
./snapcreator --setup
Welcome to the NetApp Snap Creator Framework release-version!
\#\#\# Installation options \#\#\#
01. NetApp Snap Creator Framework release-version Server
02. NetApp Snap Creator Framework release-version Remote CLI
Select install option (enter a number or "q" to quit):
```

Snap Creator サーバをインストールするには「01」と入力します。

- オプション 01 では、 Snap Creator ユーザおよびパスワードを設定し、 Snap Creator サーバの実行に使用する GUI ポートを指定して、 Snap Creator サーバの初期セットアップを実行し、その他のパラメータを設定します。
- オプション 02 により、 Snap Creator サーバがローカルバイナリとしてセットアップされ、ローカルシステムの CLI からリモートの Snap Creator サーバへ問題コマンドを実行できるようになります。

4. ここに y を入力して、エンドユーザライセンス契約に同意します。

```
END USER LICENSE AGREEMENT
...the EULA displays...

Do you accept the End User License Agreement (y|n): <Enter y>

Enter controller serial number (Recommended): <OPTIONAL: Enter serial
number for one of your storage controllers>
```

5. コントローラのシリアル番号を入力します。

コントローラのシリアル番号は、 Snap Creator のプロパティファイルに組み込まれており、サポート出力とログ出力に含まれています。この情報は、あとで発生する可能性のある問題のトラブルシューティングに役立ちます。

6. サーバポート、システム IP 、および Java ビンパスを入力し、プロンプトに進みます。

```
Enter Snap Creator server port [8443]: <Enter server port>
```

```
Enable job monitor (Y|N): <Enter Y>
```

```
Enter job monitor size, how many jobs to allow [100]: <Enter the number of jobs from 1-1000>
```



Job Monitor size * に指定できる最大値は 10、000 ですが、最大値として 1000 を指定することを推奨します。

```
Enter scServer Administrator Username: <Enter the Administrator username>
```

```
Enter password for snap_creator_administrator: <Enter the password>
```

```
Confirm password for snap_creator_administrator: <Enter the password again>
```

```
Enter JAVA Bin Path: /usr/java/default/bin
```

```
Enter Your System IP: 10.232.30.18
```

```
INFO: Updated NetApp Snap Creator Framework release-version  
/install_path/scServerrelease-version/engine/etc/snapcreator.properties
```

```
INFO: Updated NetApp Snap Creator Framework release-version  
/install_path/scServerrelease-version/bin/scServer
```

```
INFO: To start scServer please do the following:
```

```
/install_path/scServerrelease-version/bin/scServer start
```

```
INFO: To access NetApp Snap Creator Framework release-version GUI goto  
https://hostname:gui_port
```

7. Snap Creator Framework サーバを起動します。

```
/install_path/scServerrelease-version/bin/scServer start
```

```
Checking Status of scServer:
```

```
Running
```

8. 指定したポート上のローカルホストに移動して、Snap Creator Framework の GUI の起動を検証します（例：）。

HTTPS を使用して接続する必要があります。接続しないと GUI が機能しません。

通信がファイアウォールを経由する場合は、ネットワークポートを開きます。

- 関連情報 *

[Snap Creator ホストに Java をインストールしています](#)

[Snap Creator ソフトウェアのダウンロード](#)

Snap Creator エージェントをインストールします

Snap Creator エージェントは、Windows ホストと UNIX ホストにインストールできます。



1 つのホストに複数のエージェントをインストールして実行することは可能ですが、ホストごとに 1 つのエージェントを使用することを推奨します。

IBM Domino プラグインを使用する場合、このプラグインを使用するには、Snap Creator エージェントを Domino データフォルダ以外の場所にインストールする必要があります。

Windows への Snap Creator エージェントのインストール

Windows インストーラを使用して、Snap Creator エージェントを Windows ホストにインストールできます。

- JRE 1.8 Update 72 以降がインストールされている必要があります。
- 管理者レベルの権限が必要です。
- デフォルトのポート（9090）または別のネットワークポートが必要です。
- Snap Creator をダウンロードしておく必要があります。
 - a. Snap_Creator_Frameworkrelease-Windowsversion.exe ファイルアイコン（たとえば、SnapCreator_Framework4.1.0 -Windows64.exe）をダブルクリックして、Snap Creator インストーラを起動します。
 - b. Welcome（ようこそ）ページで、*Next（次へ）* をクリックしてインストールを開始します。
 - c. ライセンス契約の内容を確認し、同意します。
 - d. [Choose Install Type] ページで、さまざまなインストールタイプに合わせて次の設定を行います。
 - *インストールタイプ* を選択します
- Agent * を選択します。
 - * エージェントをサービスとして開始 *

このオプションを選択すると 'インストール・プロセスの完了直後に * snapcreatoragentservice * をインストールして起動できます

このオプションが選択されていない場合、[エージェントポート] フィールドは無効になります。



このオプションを選択しない場合、サービスはインストールされません。コマンドプロンプトからバッチスクリプトを実行して、Snap Creator エージェントを手動で起動する必要があります。

- * システム IP を入力します *

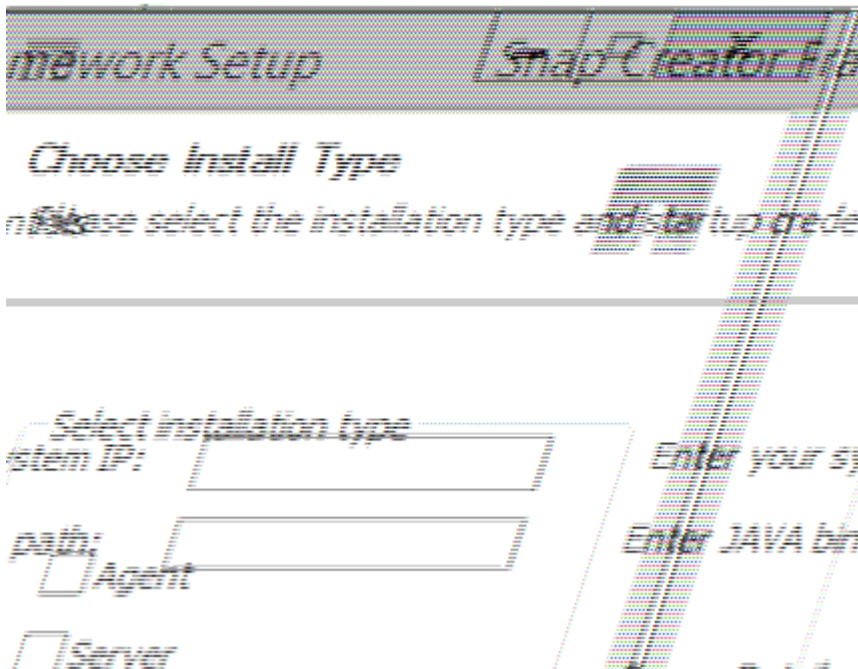
Snap Creator サーバまたは Snap Creator エージェントがインストールされているシステムの IP アドレスを指定する場合は、このオプションを選択します。このオプションは、Snap Creator のインストールプロセス中に SSL 証明書を生成するために使用します。

- * Java bin path * を入力します

keytool ユーティリティを見つけるための Java ビンパスを指定するには、このオプションを選択します。keytool ユーティリティを使用して、Snap Creator のインストールプロセス中に SSL 証明書を生成します。

- * エージェントポート *

デフォルトのポート（9090）をそのまま使用するか、ポート番号を指定します。



- 「* 次へ *」をクリックします。
- Choose Install Location ページで、Snap Creator のインストールパスを入力するか、デフォルトのパス（C : \Program Files\NetApp\SnapCreator\Framework）を受け入れ、* Next * をクリックします。



IBM Domino プラグインを使用する場合は、Domino データフォルダ以外の場所を選択してください。

- [Choose Start Menu Folder] ページで、Snap Creator が Windows の Start メニューに表示されるフォルダをカスタマイズするか、デフォルトのフォルダ・オプションを受け入れてから、[*Install]

をクリックします。

- d. インストールが完了したら、「* 次へ *」をクリックします。

インストールオプションでサービスを選択した場合は、Snap Creator エージェントサービスのインストール時にコマンドプロンプトが表示されます。このプロセスは既存のサービスを開始しようとしています。そのため、この手順の一部としてエラーメッセージが表示されることがよくありますが、このメッセージは無視してください。

- e. [完了] をクリックして、Windows インストーラを閉じます。

インストールプロセスで「* Start agent as service *」オプションを選択しなかった場合は、Snap Creator エージェントを手動で起動する必要があります。

• 関連情報 *

[Snap Creator ホストに Java をインストールしています](#)

[Snap Creator ソフトウェアのダウンロード](#)

[コマンドプロンプトからエージェントを起動します](#)

[コマンドプロンプトからエージェントを起動します](#)

Snap Creator エージェントは、バッチスクリプト（scAgent.bat）を実行することで、コマンドプロンプトから手動で起動できます。

通常、この手順は、インストールプロセス中に [サービスとしてエージェントを開始する *] オプションを選択しなかった場合にのみ使用してください。

また、Windows タスクスケジューラを使用して、起動時に実行するバッチスクリプト（scAgent.bat）をスケジュールすることもできます。Windows タスクスケジューラの使用の詳細については、Windows オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

1. コマンドプロンプトを開き、次のコマンドを入力します。

```
cd \install_path\scAgentrelease-version\bin\  
scAgent.bat start
```

```
cd \Program Files\NetApp\Snap_Creator_Framework\scAgent4.1.0\bin\  
scAgent.bat start
```

バッチスクリプト（scAgent.bat）はフォアグラウンドで Snap Creator を実行するため、Snap Creator エージェントはコマンドプロンプトが開いているかぎり実行を継続します。コマンドプロンプトを閉じると、Snap Creator エージェントが終了します。Snap Creator をバックグラウンドで実行するには、Snap Creator エージェントサービスを使用する必要があります。

UNIX ベースのシステムへの **Snap Creator** エージェントのインストール

Snap Creator エージェントは、あらゆるオープンシステムプラットフォーム（AIX、HP-UX、Linux、Solaris）で動作します。

JRE 1.8 Update 72 以降がインストールされている必要があります。詳細については、Snap Creator サーバへの Java のインストールに関する関連リンクを参照してください。

インストールを実行するユーザーは、十分なアクセス権と権限を持っている必要があります。

Snap Creator エージェントのデフォルトポートは 9090 とします。netstat または類似のツールを使用して、ネットワークポート（9090 または使用するポート）がすでに使用可能でないことを確認します（たとえば、「netstat -nap|grep 9090」と入力します）。

Snap Creator はダウンロード済みである必要があります。詳細については、Snap Creator ソフトウェアのダウンロードに関する情報を参照してください。

ここでは、Linux をサンプルプラットフォームとして使用しています。

1. ダウンロードした Snap Creator の tar.gz ファイルを、Snap Creator エージェントのインストール先にコピーします。



IBM Domino プラグインを使用する場合は、Domino データフォルダ以外の場所を選択してください。

- a. サブディレクトリを作成するには、ディレクトリ名を指定して次のコマンドを入力します。

```
mkdir snap_creator_directory
```

```
mkdir /SC_41
```

- b. 次のコマンドを入力して、新しく作成したディレクトリに Snap Creator の tar.gz ファイルをコピーします。

```
cp NetApp_Snap_Creator_Frameworkrelease-os.tar.gz  
/snap_creator_directory
```

```
cp NetApp_Snap_Creator_Framework4.1.0-Linux32.tar.gz  
/SC_41
```

2. Snap Creator Framework の .tar ファイルが格納されているディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してファイルを展開します。



UNIX 環境によっては、tar コマンドを入力する前にファイルを解凍しなければならない場合があります。

```
cd snap_creator_directory
tar -xvf NetApp_Snap_Creator_Frameworkrelease-os.tar.gz
```

- ° snap_creator_directory は、Snap Creator のインストール先です。
- ° release は、Snap Creator ソフトウェアパッケージの現在のリリースです。
- ° OS はオペレーティングシステムです。

```
cd /sc_41
tar -xvf NetApp_Snap_Creator_Framework4.1.0-Linux32.tar.gz
```

これにより、サーバとエージェントの両方のソフトウェアが抽出されます。通常、Snap Creator サーバのみが設定されます。エージェントは通常、次の例に示すように、保護対象のデータベースまたはアプリケーションサーバ上に存在します。

[+]

```
NetApp_Snap_Creator_Framework4.1.0-Linux32.tar.gz  scServer4.1.0
scAgent4.1.0
```

3. 次のコマンドを入力し、例に示すプロンプトに対して応答して、Snap Creator エージェントをセットアップします。

```

cd scAgent*
./snapcreator --setup
Welcome to the NetApp Snap Creator Framework release-version!
\#\#\# Installation options \#\#\#
01. NetApp Snap Creator Framework release-version Agent
Select install option (enter a number or "q" to quit): <Enter 01>

END USER LICENSE AGREEMENT
<...the EULA displays...>

Do you accept the End User License Agreement (y|n): <Enter y>

Enter Snap Creator server port [9090]: <Enter agent port>

INFO: Updated NetApp Snap Creator Framework release-version
/install_path/scAgentrelease-version/engine/etc/agent.properties

INFO: To start scAgent please do the following:

/install_path/scAgentrelease-version/bin/scAgent start

```

4. Snap Creator エージェントを起動します。

```
/install_path/scAgentrelease-version/bin/scAgent start
```



Snap Creator エージェントを起動時に自動的に実行するには、スクリプトに start コマンドを追加します。

スクリプトを作成する手順は、使用するオペレーティングシステムや、サーバを管理するシステム管理者の設定によって多少異なります。一般に、Snap Creator エージェントの start コマンドは、/path/to/rc2.d サブディレクトリにある S9（S99scAgent など）で始まるファイルに追加できます。rc2.d サブディレクトリは一般に /etc/下 にありますが、これはホストオペレーティングシステムとサーバの特定の構成によって異なる場合があります。詳細については、使用しているオペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

次のメッセージが表示されます。

```

Starting scAgent:
  Watchdog: Running
  Agent: Running

```

。関連情報 *

Snap Creator ホストに Java をインストールしています

Snap Creator ソフトウェアのダウンロード

インストール後に **Snap Creator** エージェントのポートを変更する

Snap Creator エージェントがリスンしているポートを変更するには、Snap Creatoragent.properties ファイルで変更を行い、エージェントを再起動します。

Snap Creator エージェントのポートを変更する手順は、Windows と UNIX で同じです。次の手順では、UNIX 環境の例を使用します。

1. Snap Creator エージェントが実行されているシステムにログインし、インストールディレクトリ内の etc サブディレクトリに移動します。

```
cd /install_path/scAgent4.3.0/etc
```

2. テキストエディタを使用して agent.properties ファイルを開きます。
3. default_port パラメータの値を新しいポートに変更します（デフォルトでは、ポートは 9090 ）。

たとえば、ポート 9191 を使用するには、default_port パラメータを次のように変更します。

```
DEFAULT_PORT=9191
```

4. agent.properties ファイルを保存して閉じます。
5. Snap Creator エージェントを再起動します。

```
/install_path/scAgent4.3.0/bin/scAgent restart
```



allowed_command.config ファイルまたは agent.properties ファイルを変更したときに Snap Creator エージェントが実行されている場合は、エージェントを再起動する必要があります。

Snap Creator をアップグレードします

Snap Creator の最新バージョンには、サポートされているさまざまなバージョンからアップグレードできます。



コミュニティサイトにあるリリースからアップグレードできるかどうかについて不明な点がある場合は、ネットアップコミュニティフォーラムをご利用ください。ネットアップコミュニティフォーラムには、次のアドレスからアクセスできます。 https://communities.netapp.com/community/products_and_solutions/databases_and_enterprise_apps/snapcreator

Snap Creator の最新バージョンにアップグレードする前に、現在インストールされている Snap Creator のバージョンのジョブモニタサイズを確認してください。Snap Creator をアップグレードするときは、ジョブ監視データベースのデータが失われないように、ジョブ監視のサイズを以前の設定と同じかそれよりも大きくする必要があります。

また、Snap Creator をアップグレードする場合は、同じオペレーティングシステム環境を使用するホスト上でアップグレードを実行する必要があります。たとえば、Windows 環境でアップグレードを実行する場合、バックアップデータをコピーするときは、UNIX ベースのシステムではなく Windows 環境にもデータをコピーして戻す必要があります。



Snap Creator にはダウングレード（リバート）オプションはありません。アップグレードプロセスでは、複数のファイルをバックアップします。Snap Creator の以前のバージョンにリバートする必要がないことが確実に確認されるまで、バックアップファイルを保持しておくことが重要です。

• 関連情報 *

ジョブ監視のサイズを確認しています

ジョブ監視のサイズを確認しています

Snap Creator の最新バージョンにアップグレードする前に、現在インストールされている Snap Creator のバージョンのジョブモニタサイズを確認する必要があります。

Snap Creator をアップグレードするときは、ジョブ監視データベースのデータが失われないように、ジョブ監視のサイズを以前の設定と同じかそれよりも大きく設定してください。Snap Creator が取得するジョブは、更新されたジョブ監視の最大サイズまでです。

たとえば、Snap Creator 4.0 でジョブモニタのサイズが 500 の場合は、最新の Snap Creator にアップグレードする際に、ジョブモニタのサイズを必ず 500 以上に設定してください。

1. 次のいずれかのオプションを実行して、ジョブモニタのサイズを確認します。

- Snap Creator サーバのプロパティファイル（`/install_path/scServer4.1.x/engine/etc/snapcreator.properties`）を開き、`SNAPCREATOR_JOB_MONITOR_SIZE` 変数を確認します。
- Snap Creator の GUI のメインメニューで、`* Management *` > `* Job Monitor *` を選択し、`* Size *` をクリックします。

[ジョブモニタサイズ] ダイアログボックスが開き、現在のサイズが上部のフィールドに表示されます。

Snap Creator 3.6 より前のリリースからのアップグレード

Snap Creator 3.6 よりも前のリリースからアップグレードする場合は、最初に Snap Creator 3.6 に一度に 1 つのバージョンをアップグレードする必要があります。

たとえば、Snap Creator 3.5.x からアップグレードするには、まず 3.5.x から 3.6 にアップグレードする必要があります。Snap Creator 3.6 を実行したあと、最新バージョンへのアップグレードを完了できます。このアップグレードプロセスでは、Snap Creator サーバのアップグレードと同時に Snap Creator エージェントをインストールできます。

- 関連情報 *

Windows での Snap Creator サーバ 3.6.x のアップグレード

Snap Creator 3.6.x からのアップグレード

Snap Creator 3.6.x からアップグレードすると、データベーススキーマがアップグレードされ、すべての構成ファイルのパスワードが最新の Snap Creator との互換性を維持するように更新されます。

Windows での Snap Creator サーバ 3.6.x のアップグレード

Windows 上の Snap Creator サーバ 3.6.x から直接アップグレードできます。

- Snap Create のユーザ名に特殊文字が含まれている場合は、アップグレードの実行前にアルファベット（a~z、A~Z）のみを使用し、それらのユーザの名前を変更してください。
- Snap Creator ディレクトリをバックアップしてバックアップデータが完全であることを確認する前に、Snap Creator のサービス（「napcreatorserverservice」および「Snapcreatoragentservice」）を停止しておきます。

たとえば、サービススナップインを使用してサービスを停止できます。

- a. 「* Start * > * Run *」を選択し、「services.msc」と入力します。
- b. Snap Creator サービスを探して選択し、サービスを停止します。または、コマンドプロンプトを開いて次のコマンドを入力することもできます。

```
sc stop snapcreatorserverservice
sc stop snapcreatoragentservice
```

- Snap Creator 3.6.x Server ディレクトリ（C : \Program Files\NetApp\SnapManager>Create_Creator_Framework\scServer3.6.x）内で、次のディレクトリと関連するすべてのサブディレクトリおよびファイルをバックアップしておきます。
 - Snap Creator データベース（..\GUI\snapcreator）
 - プロファイルと構成ファイル（..\configs）
 - ログ（..\logs） * メモ： * 作成した Snap Creator 3.6.x バックアップコピーは削除しないでください。
- （オプション） Snap Creator エージェントが Snap Creator サーバと同じホストにインストールされている場合は、agent.conf ファイル（C : \Program Files\NetApp\NetApp_Snap Creator\Framework\scServer3.6.x\config\agent.conf）をバックアップする必要があります。

以降の手順で示すパスは、Windows のデフォルトのインストールパスです。デフォルト値を使用しなかった場合は、パス情報が異なる可能性があります。

アップグレードプロセスが完了したら、次の点を考慮してください。

- アップグレードされた Snap Creator データベースに「in progress」とマークされたタスクが含まれている場合、アップグレード・プロセスが完了しても、状態は同じままです。

- 最新の Snap Creator のデフォルト管理者は、Snap Creator 3.6.x の管理者である必要があります。3.6.x ユーザーが管理者ではない場合、アップグレードによってオペレータロールが 3.6.x ユーザーに割り当てられます。

- a. Snap Creator サービスをまだ停止していない場合は停止します。

サービスの停止については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

- b. Snap Creator (Windows) をアンインストールするには、`* Start * > * Programs * > * Snap Creator * > * Uninstall NetApp Snap Creator Framework *` を選択します。

詳細については、Windows での Snap Creator のアンインストールに関する情報を参照してください。

- c. 最新の Snap Creator サーバをインストールします。

詳細については、Windows への Snap Creator サーバのインストールに関する情報を参照してください。

- d. 最新の Snap Creator サーバのインストール時に Snap Creator サーバのサービスを開始するように選択した場合は、サービスを停止します。

サービスの停止については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

- e. 最新の Snap Creator Server データベースフォルダ (C : \Program Files\NetApp\Snap Creator\Framework\scServer4.1.x\engine\snapcreator) を削除します。

- f. バックアップした Snap Creator 3.6.x データベースディレクトリを最新の場所にコピーします (C : \Program Files\NetApp\Virtual Creator\Framework\scServer4.1.x\engine\snapcreator)。

- g. バックアップした Snap Creator 3.6.x のプロファイルと設定ディレクトリを最新の場所にコピーします (C : \Program Files\NetApp\SnapCreator\Framework\scServer4.1.x\engine\configs)。

- h. バックアップした Snap Creator 3.6.x のログディレクトリを最新の場所にコピーします (C : \Program Files\NetApp\Virtual Creator\Framework\scServer4.1.x\engine\logs)。

- i. コマンドプロンプトを開き、Snap Creator のインストールパス (C : \Program Files\NetApp\SnapCreator\Framework\scServer4.1.x\engine) のエンジンサブディレクトリにディレクトリを変更します。

- j. 次のコマンドを入力して、Snap Creator をアップグレードします。 `java -jar snapcreator.jar -upgrade`

アップグレードプロセスが完了したら、次のいずれかの方法で Snap Creator サーバサービスを開始します。

- サービススナップインを使用してサービスを開始します。
- コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。 `'c start snapcreatorserver'`

また、指定したポート上のローカルホストに移動することで、Snap Creator Framework の GUI の起動を検証する必要があります。

HTTPS を使用して接続する必要があります。接続が HTTPS 接続に自動的にリダイレクトされず、GUI が機能しません。

- 関連情報 *

[Snap Creator サーバをインストールします](#)

UNIX ベースのシステムでの Snap Creator サーバ 3.6.x のアップグレード

UNIX ベースのシステムでは、Snap Creator サーバ 3.6.x から直接アップグレードできます。

- Snap Creator に特殊文字を含むユーザ名がある場合は、アップグレードの実行前にアルファベット（a~z、A~Z）のみを使用し、それらのユーザの名前を変更してください。
- Snap Creator のディレクトリをバックアップする前に Snap Creator のプロセスを停止し、バックアップされたデータが確実に完了するようにしておきます。

たとえば、次のコマンドを入力します。

```
/install_path/scServer3.6.x/bin/scServer stop  
/install_path/scAgent3.6.x/bin/scAgent stop
```

- Snap Creator 3.6.x Server ディレクトリ（/install_path/scServer3.6.x）にある次のディレクトリと、関連するすべてのサブディレクトリおよびファイルをバックアップしておきます。
 - Snap Creator データベース（./snapcreator /gui/snapcreator）
 - プロファイルと構成ファイル（./configs）
 - ログ（./logs） * メモ：* 作成した Snap Creator 3.6.x バックアップコピーは削除しないでください。

次の手順で指定するパスは、デフォルトのインストールパスを示しています。以下のコマンドで使用するパスは、インストールパスと異なる場合があります。

アップグレードプロセスが完了したら、次の点を考慮してください。

- アップグレードされた Snap Creator データベースに「in progress」とマークされたタスクが含まれている場合、アップグレード・プロセスが完了しても、状態は同じままです。
- 最新の Snap Creator のデフォルト管理者は、Snap Creator 3.6.x の管理者である必要があります。3.6.x ユーザが管理者ではない場合、アップグレードによってオペレータロールが 3.6.x ユーザに割り当てられます。
 - a. Snap Creator プロセスをまだ停止していない場合は停止します。

プロセスの停止については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

- b. 最新の Snap Creator をインストールします。ただし、Snap Creator サーバサービスは開始しないでください。

詳細については、UNIX への Snap Creator サーバのインストールに関する情報を参照してください。

- c. バックアップした Snap Creator 3.6.x データベースディレクトリを最新のデータベースの場所にコピーします（/install_path/scServer4.1.x/engine/snapcreator）。
- d. バックアップした Snap Creator 3.6.x のプロファイルと構成フォルダを最新の場所にコピーします（/install_path/scServer4.1.x/engine/configs）。

- e. バックアップした Snap Creator 3.6.x のログフォルダを最新の場所にコピーします（`/install_path/scServer4.1.x/engine/logs`）。
- f. Snap Creator のインストールパス（`/install_path/scServer4.1.x/engine`）のエンジンサブディレクトリにディレクトリを変更します。
- g. 次のコマンドを入力して、Snap Creator をアップグレードします。 `java -jar snapcreator.jar -upgrade`

アップグレードプロセスが完了したら、次のコマンドを入力して、Snap Creator サーバのサービスを開始します。

`/install_path/scServer4.1.x/bin/scServerstart` に入力します

また、Snap Creator 3.6.x のインストールディレクトリを削除します。



古いバージョンにリポートする必要があることが確実に確認されるまで、バックアップコピーを削除しないでください。

また、指定したポート上のローカルホストに移動することで、Snap Creator Framework の GUI の起動を検証する必要があります。

HTTPS を使用して接続する必要があります。接続が HTTPS 接続に自動的にリダイレクトされず、GUI が機能しません。

• 関連情報 *

UNIX ベースのシステムへの Snap Creator サーバのインストール

Windows での Snap Creator エージェント 3.6.x のアップグレード

Windows では Snap Creator エージェント 3.6.x から直接アップグレードできます。

- Snap Creator エージェントのディレクトリをバックアップしてバックアップデータが完全であることを確認する前に、Snap Creator エージェントサービス（「napcreatoragentservice」）を停止しておきます。

たとえば、サービススナップインを使用してサービスを停止できます。

- a. 「* Start * > * Run *」を選択し、「services.msc」と入力します。
- b. Snap Creator エージェントサービスを探して選択し、サービスを停止します。または、コマンドプロンプトを開いて次のコマンドを入力することもできます。

```
sc stop snapcreatoragentservice
```

- Snap Creator エージェントのディレクトリ（`C : \Program Files\NetApp\Virtual Snap_Creator_Framework\scAgent3.6.x`）に、次のディレクトリと、それに関連付けられているすべてのサブディレクトリおよびファイルをバックアップしておきます。
 - agent.conf ファイル（`..\config\agent.conf`）



Snap Creator サーバが同じシステムにインストールされている場合は、Snap Creator サーバ 3.6.x のアップグレード時にこのファイルをバックアップ済みの可能性があります

- ログディレクトリ（有効な場合）（`..\logs`）
- Plug-ins ディレクトリ（`..\plugins`）

4.1 より前のバージョンの Snap Creator エージェントでは、`agent.conf` というファイルを使用して、Snap Creator の外部で Snap Creator エージェント上で実行される可能性のあるコマンドをリストしました。4.1 では、`allowed_command.config` ファイルが使用されます。

同様に、Snap Creator エージェントが通信を許可した、`agent.conf` ファイルが表示されたホスト。デフォルトでは、Snap Creator エージェントはすべての Snap Creator サーバとの通信を許可しました。ただし、以前のバージョンの Snap Creator でこの機能を使用するように選択した場合は、`agent.properties` ファイルの `authorized_hosts` パラメータがこの機能を置き換えます。



これらのパラメータを使用しなかった場合は、新しいエージェントを簡単にインストールするだけで済みます。

以降の手順で示すパスは、Windows のデフォルトのインストールパスです。デフォルト値を使用しなかった場合は、パス情報がインストールパスと異なることがあります。

1. Snap Creator エージェントサービスをまだ停止していない場合は停止します。

サービスの停止については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

2. Snap Creator（Windows）をアンインストールするには、`* Start * > * Programs * > * Snap Creator * > * Uninstall NetApp Snap Creator Framework *` を選択します。

詳細については、Windows での Snap Creator のアンインストールに関する情報を参照してください。

3. 最新の Snap Creator エージェントをインストールします。

詳細については、Windows への Snap Creator エージェントのインストールに関する情報を参照してください。

4. バックアップした `agent.conf` ファイルのコピーをテキストエディタで開きます。

`agent.conf` の例を次に示します。

```
host: scServer@Tampico
command: sdcli.exe
```

5. 新しい `allowed_commands.config` ファイル（`C : \Program Files\NetApp\SnapManager Creator_Framework\scAgent4.1.x\etc\allowed_commands.config`）をテキストエディタで開き、`agent.conf` のコマンドラインを `allowed_commands.config` ファイルにコピーします。ただし、最新の Snap Creator のセキュリティ強化により、コマンドが完全に認定されていることを確認してください。

前述の例では、`allowed_command.config` ファイルに次の情報を指定する必要があります。

```
command: "C:\Program Files\NetApp\SnapDrive\sdcli.exe"
```



"[.code]Program Files" の間のスペースのため、コマンドをカプセル化するには引用符を含める必要があります。コマンドにスペースが含まれていない場合は、引用符は必要ありません。

必要に応じて、コマンドを個別の行に追加できます。

6. ファイルを保存して閉じます。
7. テキストエディタで agent.properties ファイル（C : \Program Files\NetApp\Virtual Creator\Framework\scAgent4.1.x\etc\agent.properties）を開き、authorized_hosts=* のデフォルトのエントリを変更して、agent.conf ファイルのホスト設定を反映します。

前述の例では、authorized_hosts パラメータに次の値を指定する必要があります。

```
AUTHORIZED_HOSTS=Tampico
```

ホストは必要に応じて追加できます。複数のホスト名を指定する場合はカンマで区切ります。ホスト名と IP アドレスの両方がサポートされます。

```
AUTHORIZED_HOSTS=Tampico, 10.10.10.192, Fuji01
```

8. ファイルを保存して閉じます。
9. 次のいずれかを実行して、Snap Creator エージェントサービスを開始します。
 - サービススナップインを使用してサービスを開始します。
 - コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。 'c start snapcreatoragentservice`
 - 関連情報 *

Windows への Snap Creator エージェントのインストール

Windows での Snap Creator のアンインストール

UNIX での Snap Creator エージェント 3.6.x のアップグレード

UNIX 上の Snap Creator エージェント 3.6.x から直接アップグレードできます。

- Snap Creator エージェントのディレクトリをバックアップする前に Snap Creator エージェントを停止し、バックアップされたデータが確実に完了するようにしておきます。

たとえば、次のコマンドを入力します。

```
/install_path/scAgent3.6.x/bin/scAgent stop
```

- Snap Creator エージェントのディレクトリ（`/install_path/scAgent3.6.x`）に、次のディレクトリと、関連するすべてのサブディレクトリおよびファイルをバックアップしておきます。
 - `agent.conf` ファイル（`./config/agent.conf`）
 - ログディレクトリ（有効な場合）（`./logs`）
 - Plug-ins ディレクトリ（`./plugins`）

4.1 より前のバージョンの Snap Creator エージェントでは、`agent.conf` というファイルを使用して、Snap Creator の外部で Snap Creator エージェント上で実行できるコマンドをリストしました。4.1 では、`allowed_command.config` ファイルが使用されます。

同様に、Snap Creator エージェントが通信を許可した、`agent.conf` ファイルが表示されたホスト。デフォルトでは、Snap Creator エージェントはすべての Snap Creator サーバとの通信を許可しました。ただし、以前のバージョンの Snap Creator でこの機能を使用するように選択した場合は、`agent.properties` ファイルの `authorized_hosts` パラメータがこの機能を置き換えます。



これらのパラメータを使用しなかった場合は、新しいエージェントを簡単にインストールするだけで済みます。

次の手順で指定するパスは、デフォルトのインストールパスを示しています。以下のコマンドのパスは、インストールパスのパスとは異なる場合があります。

1. Snap Creator エージェントをまだ停止していない場合は停止します。

詳細については、このトピックで前述の説明を参照してください。

2. 最新の Snap Creator エージェントをインストールします。ただし、Snap Creator エージェントは起動しないでください。

詳細については、UNIX への Snap Creator エージェントのインストールに関する情報を参照してください。

3. バックアップした `agent.conf` ファイルのコピーをテキストエディタで開きます。

`agent.conf` の例を次に示します。

```
host: scServer@Lyon
command: rc_domino
```

4. 新しい `allowed_commands.config` ファイル（`/install_path/scAgent4.1.x/etc/allowed_commands.config`）をテキストエディタで開き、`agent.conf` からコマンドラインを `allowed_commands.config` ファイルにコピーします。ただし、最新の Snap Creator でのセキュリティの強化により、コマンドが完全に認定されていることを確認してください。

前述の例では、`allowed_command.config` ファイルに次の情報を指定する必要があります。

```
command: /etc/init.d/rc_domino
```



コマンドにスペースが含まれている場合は、コマンドを引用符で囲む必要があります。

必要に応じて、コマンドを個別の行に追加できます。

変更を行った後、ファイルを保存して閉じます。

5. テキストエディタで agent.properties ファイル（ /install_path/scAgent4.1.x /etc/agent.properties ）を開き、 authorized_hosts=* のデフォルトエントリを変更して agent.conf ファイルのホスト設定を反映させ、ファイルを保存して閉じます。

前述の例では、 authorized_hosts パラメータに次の値を指定する必要があります。

```
AUTHORIZED_HOSTS=Lyon
```

ホストは必要に応じて追加できます。複数のホスト名を指定する場合はカンマで区切ります。ホスト名と IP アドレスの両方がサポートされます。

```
AUTHORIZED_HOSTS=Lyon, 10.10.10.192, Fuji01
```

6. 次のコマンドを入力して、 Snap Creator エージェントを起動します。

```
/install_path/scAgent4.1.x/bin/scAgent start
```

。関連情報 *

UNIX ベースのシステムへの Snap Creator エージェントのインストール

Snap Creator 4.0.x からアップグレードする

Snap Creator 4.0.x からアップグレードすると、データベーススキーマがアップグレードされます。

Windows での Snap Creator サーバ 4.0.x のアップグレード

Windows 上の Snap Creator サーバ 4.0.x から直接アップグレードできます。

- Snap Creator に特殊文字を含むユーザ名がある場合は、アルファベット（ a~z と A~Z ）のみを使用し、それらのユーザの名前を変更する必要があります。
- Snap Creator ディレクトリをバックアップしてバックアップデータが完全であることを確認する前に、Snap Creator のサービス（「napcreatorserverservice」および「Snapcreatoragentservice」）を停止しておく必要があります。

たとえば、サービススナップインを使用してサービスを停止できます。

- a. 「 * Start * > * Run * 」を選択し、「 services .msc 」と入力します。

- b. Snap Creator サービスを探して選択し、サービスを停止します。または、コマンドプロンプトを開いて次のコマンドを入力することもできます。

```
sc stop snapcreatorserverservice
sc stop snapcreatoragentservice
```

- 次のディレクトリと、関連付けられているすべてのサブディレクトリとファイルをバックアップしておく必要があります。これらのディレクトリは、 Snap Creator 4.0.x Server エンジンのサブディレクトリ（ C ： \Program Files\NetApp\Snap_Creator_Framework\scServer4.0.x\engine ） 内にバックアップされている必要があります。
 - Snap Creator データベース（ ./snapcreator ）
 - Snap Creator サーバのプロパティ（ ../etc ）
 - プロファイルと構成（ ../configs ）
 - ログ（ ../logs ） * 注： * 作成した Snap Creator 4.0.x バックアップコピーは削除していません。
- （オプション） Snap Creator エージェントが Snap Creator サーバと同じホストにインストールされている場合は、 agent.conf ファイル（ C ： \Program Files\NetApp\SnapManager Creator_Framework\scAgent4.x\config\agent.conf ） をすでにバックアップしておく必要があります。

以降の手順で示すパスは、 Windows のデフォルトのインストールパスです。デフォルト値を使用しなかった場合は、パス情報がインストールパスと異なることがあります。

アップグレードプロセスが完了したら、次の点を考慮してください。

- アップグレードされた Snap Creator データベースに「 in progress 」とマークされたタスクが含まれている場合、アップグレード・プロセスが完了しても、状態は同じままです。
- 最新の Snap Creator のデフォルト管理者は、 Snap Creator 4.0.x で管理者である必要があります。 4.0.x ユーザが管理者でない場合、アップグレードにより、 4.0.x ユーザにオペレータロールが割り当てられます。
 - a. Snap Creator サービスをまだ停止していない場合は停止します。

サービスの停止については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

- b. Snap Creator （ Windows ） をアンインストールするには、 * Start * > * Programs * > * Snap Creator * > * Uninstall NetApp Snap Creator Framework * を選択します。

詳細については、 Windows での Snap Creator のアンインストールに関する情報を参照してください。

- c. 最新の Snap Creator サーバをインストールします。

詳細については、 Windows への Snap Creator サーバのインストールに関する情報を参照してください。

- d. 最新の Snap Creator サーバのインストール時に Snap Creator サーバのサービスを開始するように選択した場合は、サービスを停止します。

サービスの停止については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

- e. 最新の Snap Creator Server データベースフォルダ（ C : \Program Files\NetApp\Snap Creator _Framework\scServer4.1.x \engine/snapcreator ）を削除します。
- f. バックアップした Snap Creator 4.0.x データベースのディレクトリを最新の場所（ C : \Program Files\NetApp\Virtual Creator _Framework\scServer4.1.x\engine/snapcreator ）にコピーします。
- g. バックアップした Snap Creator 4.0.x のプロファイルと設定ディレクトリを最新の場所（ C : \Program Files\NetApp\Virtual Creator _Framework\scServer4.1.x\engine\configs ）にコピーします。
- h. バックアップした Snap Creator 4.0.x のログディレクトリを最新の場所（ C : \Program Files\NetApp\Virtual Creator _Framework\scServer4.1.x\engine\logs ）にコピーします。
- i. コマンドプロンプトを開き、 Snap Creator のインストールパス（ C : \Program Files\NetApp\Snap Creator _Framework\scServer4.1.x \engine ）の engine サブディレクトリにディレクトリを変更します。
- j. 次のコマンドを入力して、 Snap Creator をアップグレードします。 `java -jar snapcreator.jar -upgrade`

アップグレードプロセスが完了したら、次のいずれかの方法で Snap Creator サーバサービスを開始します。

- サービススナップインを使用してサービスを開始します。
- コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。「 `-c start snapcreatorserverservice` 」

また、指定したポート上のローカルホストに移動することで、 Snap Creator Framework の GUI の起動を検証する必要があります。

HTTPS を使用して接続する必要があります。接続が HTTPS 接続に自動的にリダイレクトされず、 GUI が機能しません。

- 関連情報 *

Snap Creator サーバをインストールします

Windows での Snap Creator のアンインストール

UNIX ベースのシステムでの Snap Creator サーバ 4.0.x のアップグレード

UNIX ベースのシステムでは、 Snap Creator サーバ 4.0.x から直接アップグレードできます。

- Snap Creator に特殊文字を含むユーザ名がある場合は、アルファベット（ a~z または A~Z ）のみを使用し、それらのユーザの名前を変更する必要があります。
- Snap Creator のディレクトリをバックアップする前に Snap Creator のプロセスを停止し、バックアップされたデータが確実に完了するようにしておきます。

たとえば、次のコマンドを入力します。

```
/install_path/scServer4.0.x/bin/scServer stop
/install_path/scAgent4.0.x/bin/scAgent stop
```

- Snap Creator 4.0.x Server エンジンのサブディレクトリ（ `/install_path/scServer4.0.x/engine` ）に、次のディレクトリと、関連するすべてのサブディレクトリおよびファイルをバックアップしておきます。

- Snap Creator データベース (`./snapcreator`)
- Snap Creator サーバのプロパティ (`/etc`)
- プロファイルと構成 (`./configs`)
- ログ (`./logs`) * メモ : * 作成した Snap Creator 4.0.x バックアップコピーは削除していません。

次の手順で指定するパスは、デフォルトのインストールパスを示しています。以下のコマンドで入力するパスは、インストールパスと異なる場合があります。

アップグレードプロセスが完了したら、次の点を考慮してください。

- アップグレード対象の Snap Creator データベースに「実行中」とマークされたタスクが含まれている場合、アップグレードプロセスが完了しても状態は同じままです。
- 最新の Snap Creator のデフォルト管理者は、Snap Creator 4.0.x で管理者である必要があります。4.0.x ユーザーが管理者でない場合、アップグレードにより、4.0.x ユーザーにオペレータロールが割り当てられます。
 - a. Snap Creator プロセスをまだ停止していない場合は停止します。

プロセスの停止については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

- b. 最新の Snap Creator をインストールします。ただし、Snap Creator サーバサービスは開始しないでください。

詳細については、UNIX への Snap Creator サーバのインストールに関する情報を参照してください。

- c. バックアップした Snap Creator 4.0.x データベースディレクトリを最新の場所にコピーします (`/install_path/scServer4.1.x/engine/snapcreator`) 。
- d. バックアップした 4.0.x のプロファイルと設定ディレクトリを最新の場所 (`/install_path/scServer4.1.x/engine/configs`) にコピーします。
- e. バックアップした 4.0.x のログディレクトリを最新の場所 (`/install_path/scServer4.1.x/engine/logs`) にコピーします。
- f. Snap Creator のインストールパス (`/install_path/scServer4.1.x/engine`) のエンジンサブディレクトリにディレクトリを変更します。
- g. 次のコマンドを入力して、Snap Creator をアップグレードします。 `java -jar snapcreator.jar -upgrade`

アップグレードプロセスが完了したら、次のコマンドを入力して、Snap Creator サーバのサービスを開始します。

`/install_path/scServer4.1.x/bin/scServerstart` に入力します

また、Snap Creator 4.0 のインストールディレクトリも削除します。



古いバージョンにリバートする必要があることが確実に確認されるまで、バックアップコピーを削除しないでください。

また、指定したポート上のローカルホストに移動することで、Snap Creator Framework の GUI の起動を検証する必要があります。

HTTPS を使用して接続する必要があります。接続が HTTPS 接続に自動的にリダイレクトされず、GUI が機能しません。

- 関連情報 *

UNIX ベースのシステムへの Snap Creator サーバのインストール

Windows での Snap Creator エージェント 4.0.x のアップグレード

Windows 上の Snap Creator エージェント 4.0.x から直接アップグレードできます。

- Snap Creator エージェントのディレクトリをバックアップしてバックアップデータが完全であることを確認する前に、Snap Creator エージェントサービス（「napcreatoragentservice」）を停止しておきます。

たとえば、サービススナップインを使用してサービスを停止できます。

- a. 「* Start * > * Run *」を選択し、「services.msc」と入力します。
- b. Snap Creator エージェントサービスを探して選択し、サービスを停止します。または、コマンドプロンプトを開いて次のコマンドを入力することもできます。

```
sc stop snapcreatoragentservice
```

- Snap Creator エージェントのディレクトリ（C : \Program Files\NetApp\Virtual Snap _Creator _Framework\scAgent4.0.x）に、次のディレクトリと、関連付けられているすべてのサブディレクトリおよびファイルをバックアップしておく必要があります。
 - agent.conf ファイル（..\config\agent.conf）



Snap Creator サーバが同じシステムにインストールされている場合は、Snap Creator サーバ 4.0.x をアップグレードするときに、このファイルをすでにバックアップしている可能性があります

- ログディレクトリ（有効な場合）（..\logs）
- Plug-ins ディレクトリ（..\plugins）

4.1 より前のバージョンの Snap Creator エージェントでは、agent.conf というファイルを使用して、Snap Creator の外部で Snap Creator エージェント上で実行される可能性のあるコマンドをリストしました。4.1 では、allowed_command.config ファイルが使用されます。

同様に、Snap Creator エージェントが通信を許可されている agent.conf ファイルが表示されたホスト。デフォルトでは、Snap Creator エージェントはすべての Snap Creator サーバとの通信を許可しました。ただし、以前のバージョンの Snap Creator でこの機能を使用するように選択した場合は、agent.properties ファイルの authorized_hosts パラメータがこの機能を置き換えます。



これらのパラメータを使用しなかった場合は、新しいエージェントを簡単にインストールするだけで済みます。

以降の手順で示すパスは、Windows のデフォルトのインストールパスです。デフォルトを使用しなかった場合は、パス情報がインストールパスと異なることがあります。

1. Snap Creator エージェントサービスをまだ停止していない場合は停止します。

サービスの停止については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

2. Snap Creator (Windows) をアンインストールするには、 * Start * > * Programs * > * Snap Creator * > * Uninstall NetApp Snap Creator Framework * を選択します。

詳細については、 Windows での Snap Creator のアンインストールに関する情報を参照してください。

3. 最新の Snap Creator エージェントをインストールします。

詳細については、 Windows への Snap Creator エージェントのインストールに関する情報を参照してください。

4. バックアップした agent.conf ファイルのコピーをテキストエディタで開きます。

agent.conf の例を次に示します。

```
host: scServer@Tampico
command: sdcli.exe
```

5. 新しい allowed_commands.config ファイル (C : \Program Files\NetApp\SnapManager Creator_Framework\scAgent4.1.x\etc\allowed_commands.config) をテキストエディタで開き、 agent.conf のコマンドラインを allowed_commands.config ファイルにコピーします。ただし、最新の Snap Creator のセキュリティ強化により、コマンドが完全に認定されていることを確認してください。

前述の例では、 allowed_command.config ファイルに次の情報を指定する必要があります。

```
command: "C:\Program Files\NetApp\SnapDrive\sdcli.exe"
```



"[code]Program Files の間のスペースのため、コマンドをカプセル化するには引用符を含める必要があります。コマンドにスペースが含まれていない場合は、引用符は必要ありません。

必要に応じて、コマンドを個別の行に追加できます。

6. ファイルを保存して閉じます。
7. テキストエディタで agent.properties ファイル (C : \Program Files\NetApp\Virtual Creator_Framework\scAgent4.1.x\etc\agent.properties) を開き、 authorized_hosts=* のデフォルトのエントリを変更して、 agent.conf ファイルのホスト設定を反映します。

前述の例では、 authorized_hosts パラメータに次の値を指定する必要があります。

```
AUTHORIZED_HOSTS=Tampico
```

ホストは必要に応じて追加できます。複数のホスト名を指定する場合はカンマで区切ります。ホスト名と IP アドレスの両方がサポートされます。

```
AUTHORIZED_HOSTS=Tampico, 10.10.10.192, Fuji01
```

8. ファイルを保存して閉じます。
9. 次のいずれかを実行して、Snap Creator エージェントサービスを開始します。
 - サービススナップインを使用してサービスを開始します。
 - コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。「c start snapcreatoragentservice`* Note : * allowed_commands.config ファイルまたは agent.properties ファイルに対する変更は、変更が行われたときに Snap Creator エージェントの再起動が必要です。
 - 関連情報 *

Windows への Snap Creator エージェントのインストール

Windows での Snap Creator のアンインストール

UNIX での Snap Creator エージェント 4.0.x のアップグレード

UNIX 上の Snap Creator エージェント 4.0.x から直接アップグレードできます。

- Snap Creator エージェントのディレクトリをバックアップする前に Snap Creator エージェントを停止し、バックアップされたデータが確実に完了するようにしておきます。

たとえば、次のコマンドを入力します。

```
/install_path/scAgent4.0.x/bin/scAgent stop
```

- Snap Creator エージェントのディレクトリ（/install_path/scAgent4.0.x）に、次のディレクトリと、関連するすべてのサブディレクトリおよびファイルをバックアップしておく必要があります。
 - agent.conf ファイル（./config/agent.conf）
 - ログディレクトリ（有効な場合）（./logs）
 - Plug-ins ディレクトリ（./plugins）

4.1 より前のバージョンの Snap Creator エージェントでは、agent.conf というファイルを使用して、Snap Creator の外部で Snap Creator エージェント上で実行される可能性のあるコマンドをリストしました。4.1 では、allowed_command.config ファイルが使用されます。

同様に、Snap Creator エージェントが通信を許可されている agent.conf ファイルが表示されたホスト。デフォルトでは、Snap Creator エージェントはすべての Snap Creator サーバとの通信を許可しました。ただし、旧バージョンの Snap Creator でこの機能を使用するように選択した場合は、agent.properties ファイルの authorized_hosts パラメータがこの機能に置き換えられます。



これらのパラメータを使用しなかった場合は、新しいエージェントを簡単にインストールするだけで済みます。

次の手順で指定するパスは、デフォルトのインストールパスを示しています。以下のコマンドで入力するパスは、インストールパスと異なる場合があります。

1. Snap Creator エージェントをまだ停止していない場合は停止します。

詳細については、このトピックで前述の説明を参照してください。

2. 最新の Snap Creator エージェントをインストールします。ただし、Snap Creator エージェントは起動しないでください。

詳細については、UNIX への Snap Creator エージェントのインストールに関する情報を参照してください。

3. バックアップした agent.conf ファイルのコピーをテキストエディタで開きます。

agent.conf ファイルの例を次に示します。

```
host: scServer@Lyon
command: rc_domino
```

4. 新しい allowed_commands.config ファイル（ /install_path/scAgent4.1.x /etc/allowed_commands.config ）をテキストエディタで開き、 agent.conf から allowed_commands.config ファイルにコマンドラインをコピーします。ただし、最新の Snap Creator でのセキュリティの強化により、コマンドが完全に認定されていることを確認してください。

前述の例では、 allowed_command.config ファイルに次の情報を指定する必要があります。

```
command: /etc/init.d/rc_domino
```



コマンドにスペースが含まれている場合は、コマンドを引用符で囲む必要があります。

必要に応じて、コマンドを個別の行に追加できます。

変更を行った後、ファイルを保存して閉じます。

5. テキストエディタで agent.properties ファイル（ /install_path/scAgent4.1.x /etc/agent.properties ）を開き、 authorized_hosts=* のデフォルトエントリを変更して、 agent.conf ファイル内のホストの設定を反映します。

前述の例では、 authorized_hosts パラメータに次の値を指定する必要があります。

```
AUTHORIZED_HOSTS=Lyon
```

ホストは必要に応じて追加できます。複数のホスト名を指定する場合はカンマで区切ります。ホスト名と IP アドレスの両方がサポートされます。

```
AUTHORIZED_HOSTS=Lyon, 10.10.10.192, Fuji01
```

変更を行った後、ファイルを保存して閉じます。

6. 次のコマンドを入力して、Snap Creator エージェントを起動します。

```
/install_path/scAgent4.1.x/bin/scAgent start
```



allowed_command.config ファイルまたは agent.properties ファイルを変更する場合、変更を行ったときには Snap Creator エージェントを再起動する必要があります。

◦ 関連情報 *

UNIX ベースのシステムへの Snap Creator エージェントのインストール

Snap Creator 4.1.x からのアップグレード

現在利用可能なすべてのパッチレベルを含め、Snap Creator 4.1.x からアップグレードできます。

Windows での Snap Creator サーバ 4.1.x のアップグレード

Windows 上で Snap Creator サーバ 4.1.x からアップグレードできます。

- Snap Creator ディレクトリをバックアップしてバックアップデータが完全であることを確認する前に、Snap Creator のサービス（「napcreatorserverservice」および「Snapcreatoragentservice」）を停止しておく必要があります。

たとえば、サービススナップインを使用してサービスを停止できます。

- a. 「* Start * > * Run *」を選択し、「services.msc」と入力します。
- b. Snap Creator サービスを探して選択し、サービスを停止します。または、コマンドプロンプトを開いて次のコマンドを入力することもできます。

```
sc stop snapcreatorserverservice  
sc stop snapcreatoragentservice
```

- Snap Creator 4.1.x Server エンジンのサブディレクトリ（C : \Program Files\NetApp\SnapCreator\Framework\scServer4.1.x\engine）内で、次のディレクトリおよび関連するすべてのサブディレクトリとファイルをバックアップしておく必要があります。
 - Snap Creator データベース（./snapcreator）
 - Snap Creator サーバのプロパティ（../etc）
 - 構成ファイル（../configs）
 - ログ（../logs）
 - プラグインリポジトリ（有効な場合）（../snapcreatorPlugin）
- （オプション）Snap Creator エージェントが Snap Creator サーバと同じホストにインストールされている場合は、Snap Creator エージェントのディレクトリ（C : \Program Files\NetApp\Virtual\SnapCreator\Framework\scAgent4.1.x）にある次のディレクトリと、関連するすべてのサブディレクトリ

りおよびファイルをバックアップする必要があります。

- Snap Creator エージェントのプロパティ（..\etc）。allowed_command.config ファイルと agent.properties ファイルが含まれています
- ログ（..\logs）
- プラグイン（..\plugins）
- コマンドプロンプトから Snap Creator を手動で起動した場合は、コマンドプロンプトを閉じて停止する必要があります。



Snap Creator がサービスから起動された場合は、アンインストーラがアンインストールプロセスの一環としてサービスを停止します。

以降の手順で示すパスは、Windows のデフォルトのインストールパスです。デフォルト値を使用しなかった場合は、パス情報がインストールパスと異なることがあります。

アップグレードプロセスが完了したら、次の点を考慮してください。

- アップグレードされた Snap Creator データベースに「in progress」とマークされたタスクが含まれている場合、アップグレード・プロセスが完了しても、状態は同じままです。
- 最新の Snap Creator のデフォルト管理者は、Snap Creator 4.1 の管理者である必要があります。

4.1.x ユーザが管理者でない場合は、4.1.x ユーザにオペレータのロールが割り当てられます。

- a. Snap Creator サービスをまだ停止していない場合は停止します。

サービスの停止については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

- b. Snap Creator（Windows）をアンインストールするには、* Start * > * Programs * > * Snap Creator * > * Uninstall NetApp Snap Creator Framework * を選択します。

詳細については、Windows での Snap Creator のアンインストールに関する情報を参照してください。

- c. 最新の Snap Creator サーバをインストールします。

詳細については、Windows への Snap Creator サーバのインストールに関する情報を参照してください。

- d. 最新の Snap Creator サーバのインストール時に Snap Creator サーバのサービスを開始するように選択した場合は、サービスを停止します。

サービスの停止については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

- e. C : \Program Files\NetApp\Snap Creator _Framework\scServer4.1.x\engine\snapcreator にある最新の Snap Creator Server データベースフォルダを削除します。
- f. バックアップした Snap Creator 4.1 のデータベースディレクトリを、C : \Program Files\NetApp\SnapManager Create_Creator_Framework\scServer4.1.x\engine\snapcreator の最新の場所にコピーします。
- g. バックアップした Snap Creator 4.1 の設定ディレクトリを、C : \Program Files\NetApp\Virtual \SnapCreator _Framework\scServer4.1.x\engine\configs の最新の場所にコピーします。

- h. バックアップした Snap Creator 4.1 のログディレクトリを最新の場所（ C : \Program Files\NetApp\Virtual Creator\Framework\scServer4.1.x\engine\logs ）にコピーします。
- i. コマンドプロンプトを開き、 C : \Program Files\NetApp\SnapCreator\Framework\scServer4.1.x\engine ）の Snap Creator インストールパスにあるエンジンサブディレクトリにディレクトリを変更します。
- j. 次のコマンドを入力して、 Snap Creator をアップグレードします。 `java -jar snapcreator.jar -upgrade`

アップグレードプロセスが完了したら、次のいずれかの方法で Snap Creator サーバサービスを開始します。

- サービススナップインを使用してサービスを開始します。
- コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc start snapcreatorserverservice
```

また、指定したポート上のローカルホストに移動することで、 Snap Creator Framework の GUI の起動を検証する必要があります。

HTTPS を使用して接続する必要があります。接続が HTTPS 接続に自動的にリダイレクトされず、 GUI が機能しません。

UNIX ベースのシステムでの **Snap Creator** サーバ **4.1.x** のアップグレード

UNIX ベースのシステムでは、 Snap Creator サーバ 4.1.x からアップグレードできません。

- Snap Creator のディレクトリをバックアップする前に Snap Creator のプロセスを停止し、バックアップデータが確実に完了するようにしておきます。

たとえば、次のコマンドを入力します。

```
/install_path/scServer4.1.0/bin/scServer stop  
/install_path/scAgent4.1.0/bin/scAgent stop
```

- Snap Creator 4.1.x Server エンジンのサブディレクトリ（ /install_path/scServer4.1.x/engine ）内で、次のディレクトリおよび関連するすべてのサブディレクトリとファイルをバックアップしておきます。
 - Snap Creator データベース（ ./snapcreator ）
 - Snap Creator サーバのプロパティ（ /etc ）
 - 構成ファイル（ ./configs ）
 - ログ（ ./logs ）
 - プラグインリポジトリ（有効な場合）（ ./snapcreatorPlugin ） * 注： * 作成した Snap Creator 4.1.x のバックアップコピーは削除しないでください。

次の手順で指定するパスは、デフォルトのインストールパスを示しています。デフォルト値を使用しなかった場合は、パス情報がインストールパスと異なることがあります。

アップグレードプロセスが完了したら、次の点を考慮してください。

- アップグレードされた Snap Creator データベースに「in progress」とマークされたタスクが含まれている場合、アップグレード・プロセスが完了しても、状態は同じままです。
- 最新の Snap Creator のデフォルトの管理者は、Snap Creator 4.1.x の管理者である必要があります

4.1.x ユーザが管理者でない場合は、4.1.x ユーザにオペレータのロールが割り当てられます。

- a. Snap Creator プロセスをまだ停止していない場合は停止します。

プロセスの停止については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

- b. 最新バージョンの Snap Creator をインストールします。Snap Creator サーバは起動しません。

詳細については、UNIX への Snap Creator サーバのインストールに関する情報を参照してください。

- c. バックアップした Snap Creator 4.1.x データベースディレクトリを最新の場所（`/install_path/scServer4.1.x/engine/snapcreator`）にコピーします。
- d. バックアップした 4.1.x 設定ディレクトリを最新の場所（`/install_path/scServer4.1.x/engine/configs`）にコピーします。
- e. バックアップした 4.1.x ログディレクトリを最新の場所（`/install_path/scServer4.1.x/engine/logs`）にコピーします。
- f. Snap Creator のインストールパスの `/install_path/scServer4.1.x/engine` に、ディレクトリをエンジンサブディレクトリに変更します。
- g. 次のコマンドを入力して、Snap Creator をアップグレードします。 `java -jar snapcreator.jar -upgrade`

アップグレードプロセスが完了したら、次のコマンドを入力して Snap Creator サーバを起動します。

```
/install_path/scServer4.1.x/bin/scServer start
```

また、Snap Creator 4.1.x のインストールディレクトリも削除してください。



古いバージョンにリポートする必要があることが確実に確認されるまで、バックアップコピーを削除しないでください。

また、指定したポート上のローカルホストに移動することで、Snap Creator Framework の GUI の起動を検証する必要があります。

HTTPS を使用して接続する必要があります。接続が HTTPS 接続に自動的にリダイレクトされず、GUI が機能しません。

Windows での Snap Creator エージェント 4.1.x のアップグレード

Windows 上で Snap Creator エージェント 4.1.x からアップグレードできます。

- Snap Creator エージェントのディレクトリをバックアップしてバックアップデータが完全であることを確認する前に、Snap Creator エージェントサービス（「napcreatoragentservice」）を停止しておきます。

たとえば、サービススナップインを使用してサービスを停止できます。

- a. 「 * Start * > * Run * 」を選択し、「 services .msc 」と入力します。
- b. Snap Creator エージェントサービスを探して選択し、サービスを停止します。または、コマンドプロンプトを開いて次のコマンドを入力することもできます。

```
sc stop snapcreatoragentservice
```

- Snap Creator エージェントのディレクトリ（ C : \Program Files\NetApp\Virtual Snap _Creator_ Framework\scAgent4.1.x ）内に、次のディレクトリと、関連付けられているすべてのサブディレクトリおよびファイルをバックアップしておきます。
 - Snap Creator エージェントのプロパティ（ ..\etc ） 。 allowed_command.config ファイルと agent.properties ファイルが含まれています
 - ログ（ ..\logs ）
 - プラグイン（ ..\plugins ） * 注： * 作成した Snap Creator 4.1.x のバックアップコピーは削除しないでください。

以降の手順で示すパスは、 Windows のデフォルトのインストールパスです。デフォルト値を使用しなかった場合は、パス情報がインストールパスと異なることがあります。

1. Snap Creator エージェントサービスをまだ停止していない場合は停止します。

サービスの停止については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

2. Snap Creator（ Windows ）をアンインストールするには、 * Start * > * Programs * > * Snap Creator * > * Uninstall NetApp Snap Creator Framework * を選択します。

詳細については、 Windows での Snap Creator のアンインストールに関する情報を参照してください。

3. 最新の Snap Creator エージェントをインストールします。

詳細については、 Windows への Snap Creator エージェントのインストールに関する情報を参照してください。

4. 最新の Snap Creator サーバのインストール時に Snap Creator エージェントのサービスを開始するように選択した場合は、サービスを停止します。

サービスの停止については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

5. バックアップされた Snap Creator 4.1.x のログディレクトリを最新の場所（ C : \Program Files\NetApp\Virtual Creator_ Framework\scAgent4.1.x \logs ）にコピーします。
6. バックアップされた Snap Creator 4.1.x プラグインディレクトリを最新の場所（ C : \Program Files\NetApp\Virtual Creator_ Framework\scAgent4.1.x プラグイン ）にコピーします。
7. バックアップされた Snap Creator 4.1.x エージェントのプロパティディレクトリを最新の場所（ C : \Program Files\NetApp\Virtual Creator_ Framework\scAgent4.1.x など ）にコピーします。
8. 次のいずれかを実行して、 Snap Creator エージェントサービスを開始します。
 - サービススナップインを使用してサービスを開始します。

- コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc start snapcreatoragentservice
```



allowed_command.config ファイルまたは agent.properties ファイルを変更する場合、変更を行ったときには Snap Creator エージェントを再起動する必要があります。

UNIX ベースのシステムでの Snap Creator エージェント 4.1.x のアップグレード

UNIX ベースのシステムでは、Snap Creator エージェント 4.1.x からアップグレードできます。

- Snap Creator エージェントのディレクトリをバックアップする前に Snap Creator エージェントを停止し、バックアップデータが確実に完了するようにしておきます。

たとえば、次のコマンドを入力します。

```
/install_path/scAgent4.1.0/bin/scAgent stop
```

- Snap Creator エージェントのディレクトリ（/install_path/scAgent4.1.x）に、次のディレクトリと、関連するすべてのサブディレクトリおよびファイルをバックアップしておきます。
 - Snap Creator エージェントのプロパティ（./etc）。allowed_command.config ファイルと agent.properties ファイルが含まれています
 - ログ（./logs）
 - プラグイン（./plugins） * 注： * 作成した Snap Creator 4.1.x バックアップコピーは削除しないでください。

次の手順で指定するパスは、デフォルトのインストールパスを示しています。デフォルト値を使用しなかった場合は、パス情報がインストールパスと異なることがあります。

1. Snap Creator エージェントをまだ停止していない場合は停止します。

詳細については、このトピックで前述した詳細を参照してください。

2. 最新の Snap Creator エージェントをインストールします。ただし、Snap Creator エージェントは起動しないでください。

詳細については、UNIX への Snap Creator エージェントのインストールに関する情報を参照してください。

3. バックアップされた Snap Creator 4.1.x のログディレクトリを /install_path/scAgent4.1.x /logs に最新の場所にコピーします）。
4. バックアップされた Snap Creator 4.1.x プラグインディレクトリを /install_path/scAgent4.1.x /plugins の最新の場所にコピーします）。
5. バックアップされた Snap Creator 4.1.x エージェントプロパティディレクトリを

/install_path/scAgent4.1.x /etc の最新の場所にコピーします)。

6. 次のコマンドを入力して、Snap Creator エージェントを起動します。

```
/install_path/scAgent4.1.x/bin/scAgent start
```



allowed_command.config ファイルまたは agent.properties ファイルを変更する場合、変更を行ったときに Snap Creator エージェントが実行されているときは、そのファイルを再起動する必要があります。

Snap Creator 4.3.x からのアップグレード

現在提供されているすべてのパッチリリースを含め、Snap Creator 4.3.x からアップグレードできます。

アップグレード手順は、Snap Creator Framework 4.1.x および 4.3.x でも同じです



Snap Creator Framework 4.3.1 を 4.3.1 パッチリリースにアップグレードする場合は、java -jar snapcreator.jar -upgrade コマンドの最後の実行手順を省略する必要があります。

Snap Creator をアンインストールしています

Snap Creator は、Windows システムおよび UNIX システムからアンインストールできます。

Windows での Snap Creator のアンインストール

Snap Creator は、Windows * Start * メニューを使用してアンインストールできます。Windows のアンインストーラによって、インストールされている Snap Creator コンポーネントが削除されます（たとえば、Snap Creator サーバと Snap Creator エージェントの両方がインストールされている場合は、両方がアンインストールされます）。同様に、インストールされているコンポーネントが 1 つだけの場合、そのコンポーネントはアンインストールされます。

- Snap Creator サーバのエンジンディレクトリ（C : \Program Files\NetApp\Virtual Creator_Framework\scServer4.1.0_engine）にある次のディレクトリと、関連付けられているすべてのサブディレクトリおよびファイルをバックアップします。
 - Snap Creator データベース（./snapcreator）
 - Snap Creator サーバのプロパティ（../etc）
 - 構成ファイル（../configs）
 - ログ（../logs）
 - プラグインリポジトリ（有効な場合）（../snapcreatorPlugin）
- Snap Creator エージェントのディレクトリ（C : \Program Files\NetApp\Virtual \SnapCreator

_Framework\scAgent4.1.0) に含まれている次のディレクトリと、関連するすべてのサブディレクトリおよびファイルをバックアップします。

- ログ (..\logs)
 - プラグイン (..\plugins)
 - Snap Creator エージェントのプロパティ (..\etc)。 allowed_command.config ファイルと agent.properties ファイルが含まれています
- コマンドプロンプトから Snap Creator を手で起動した場合は、コマンドプロンプトを閉じて Snap Creator を停止して終了します。



Snap Creator がサービスから起動された場合は、アンインストーラがアンインストールプロセスの一環としてサービスを停止します。

- a. Start * > * all programs * > * Snap Creator * > * Uninstall NetApp Snap Creator Framework * を選択します。
- b. Snap Creator をアンインストールする前にログファイルと構成ファイルをバックアップしたかどうかを尋ねるプロンプトが表示されたら、 * Yes * をクリックします。
- c. アンインストールプロセスが完了したら、 **[Close]**(閉じる) をクリックします。

UNIX 上での Snap Creator のアンインストール

UNIX 上で Snap Creator をアンインストールする場合は、まず Snap Creator エージェントをアンインストールしてから、 Snap Creator サーバをアンインストールします。

UNIX での Snap Creator エージェントのアンインストール

Snap Creator エージェントは、 UNIX からアンインストールするには、 Snap Creator エージェントのインストールフォルダを削除します。

Snap Creator エージェントのディレクトリ (/install_path/scAgent4.1.0) にある次のディレクトリと、関連するすべてのサブディレクトリおよびファイルをバックアップします。

- ログ (./logs)
- プラグイン (./plugins)
- Snap Creator エージェントのプロパティ (./etc)。 allowed_command.config ファイルと agent.properties ファイルが含まれています

Snap Creator エージェントをアンインストールするには、次の手順を実行します。



以降の手順で示すパスは、汎用のインストールパスを参照してください。これらのコマンドのパスを変更して、カスタマイズした Snap Creator エージェントのインストールパスを反映させることができます。

1. 次のスクリプトを使用して、 Snap Creator エージェントを停止します。

```
/install_path/scAgent4.1.0/bin/scAgent stop
```

2. Snap Creator エージェントのインストールフォルダを削除します。

たとえば、Linux システムで次のコマンドを実行します。

```
rm -Rf /install_path/scAgent4.1.0
```

UNIX での Snap Creator サーバのアンインストール

Snap Creator サーバを UNIX からアンインストールするには、Snap Creator サーバのインストールフォルダを削除します。

Snap Creator サーバのエンジンディレクトリ（/install_path/scServer4.1.0/engine）に、次のディレクトリおよび関連するすべてのサブディレクトリとファイルをバックアップします。

- Snap Creator データベース（./snapcreator）
- Snap Creator サーバのプロパティ（/etc）
- 構成（./configs）
- ログ（./logs）
- プラグインリポジトリ（有効な場合）（./snapcreatorPlugin）



これらのディレクトリは必ずバックアップしてください。バックアップしておかないと、ユーザデータが失われてリカバリできなくなります。

Snap Creator サーバをアンインストールするには、次の手順を実行します。



以降の手順で示すパスは、汎用のインストールパスを参照してください。これらのコマンドのパスを変更して、カスタマイズした Snap Creator サーバのインストールパスを反映させることができます。

1. 次のスクリプトを使用して、Snap Creator サーバのサービス（「napcreatorserverservice」）を停止します。

```
/install_path/scServer4.1.0/bin/scServer stop
```

2. Snap Creator サーバのインストールフォルダを削除します。

たとえば、Linux システムの場合は次のコマンドを実行します。

```
rm -Rf /install_path/scServer4.1.0
```

CLI リファレンス

このセクションには、コマンドラインインターフェイスから Snap Creator を使用するための参照情報が記載されています。

clustered Data ONTAP で Snap Creator ユーザのロールを作成するための CLI コマンド

clustered Data ONTAP で Snap Creator ユーザを作成する際には、各種コマンドを実行して、新しいクラスタユーザまたは SVM ユーザのロールを作成する必要があります。

クラスタロールを作成するための CLI コマンド

次の表に、新しいクラスタユーザのロールを作成するのに必要なコマンドを示します。

コマンドディレクトリ名	実行するコマンド
cluster identity show の実行	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "cluster identity show " -vserver clus3240rre</code>
イベント	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "event" -vserver clus3240rre</code>
イベント構成	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "event config" -vserver clus3240rre</code>
イベントの送信先	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "event destination" -vserver clus3240rre</code>
イベントログ	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "event log" -vserver clus3240rre</code>
イベントのメール履歴	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "event mailhistory" -vserver clus3240rre</code>
イベントルート	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "event route" -vserver clus3240rre</code>
イベントのフィリストーリー	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "event snmhistory " -vserver clus3240rre</code>
イベントステータス	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "event status" -vserver clus3240rre</code>
LUN のコメント	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "LUN comment" -vserver clus3240rre</code>

コマンドディレクトリ名	実行するコマンド
lun create をクリックします	role create -role CRBAC_New -cmddirname "lun create " -vserver clus3240rre
lun delete	role create -role CRBAC_New -cmddirname "lun delete " -vserver clus3240rre
LUN ジオメトリ	role create -role CRBAC_New -cmddirname "LUN geometry" -vserver clus3240rre
LUN igroup add	role create -role CRBAC_New -cmddirname "lun igroup add " -vserver clus3240rre
lun igroup create を追加します	role create -role CRBAC_New -cmddirname "lun igroup create " -vserver clus3240rre
LUN igroup セット	role create -role CRBAC_New -cmddirname "lun igroup set" -vserver clus3240rre
lun igroup show を参照してください	role create -role CRBAC_New -cmddirname "lun igroup show " -vserver clus3240rre
LUN マップ	role create -role CRBAC_New -cmddirname "LUN map" -vserver clus3240rre
lun mapping show	role create -role CRBAC_New -cmddirname "lun mapping show " -vserver clus3240rre
lun modify を追加します	role create -role CRBAC_New -cmddirname "lun modify " -vserver clus3240rre
LUN の移動	role create -role CRBAC_New -cmddirname "LUN move" -vserver clus3240rre
LUN はオフラインです	role create -role CRBAC_New -cmddirname "LUN offline" -vserver clus3240rre
LUN はオンラインです	role create -role CRBAC_New -cmddirname "LUN online" -vserver clus3240rre
LUN のサイズ変更	role create -role CRBAC_New -cmddirname "LUN resize " -vserver clus3240rre
lun show をクリックします	role create -role CRBAC_New -cmddirname "lun show " -vserver clus3240rre

コマンドディレクトリ名	実行するコマンド
LUN のマッピング解除	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "lun unmap " -vserver clus3240rre</code>
ネットワーク	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "network" -vserver clus3240rre</code>
network fcp adapter show コマンドを入力します	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "network fcp adapter show" -vserver clus3240rre</code>
network interface show の略	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "network interface show " -vserver clus3240rre</code>
security login role show と表示されます	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "security login role show " -vserver clus3240rre</code>
security login show のページにアクセスします	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "security login show" -vserver clus3240rre</code>
SnapMirror	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "snapmirror" -vserver clus3240rre</code>
ストレージアグリゲート	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "storage aggregate" -vserver clus3240rre</code>
system license show コマンドを実行します	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "system license show " -vserver clus3240rre</code>
システムノード	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "system node" -vserver clus3240rre</code>
System node AutoSupport の略	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "system node AutoSupport " -vserver clus3240rre</code>
システムノード AutoSupport が起動します	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "system node AutoSupport Invoke-Na" -vserver clus3240rre</code>
system node show のコマンドです	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "system node show" -vserver clus3240rre</code>
システムノードを実行します	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "system node run " -vserver clus3240rre</code>
システムサービス NDMP	<code>role create -role CRBAC_New -cmddirname "system services ndmp " -vserver clus3240rre</code>

コマンドディレクトリ名	実行するコマンド
バージョン	role create -role CRBAC_New -cmddirname "version" -vserver clus3240rre
バージョン	security login role create -role bainew1 -vserver SnapCreator -cmddirname " -version " -access readonly
vserver export-policy rule create	role create -role CRBAC_New -cmddirname 「 vserver export-policy rule create 」 -vserver clus3240rre
vserver export-policy rule show	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver export-policy rule show " -vserver clus3240rre
vserver export-policy show のコマンドを入力します	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver export-policy show " -vserver clus3240rre
SVM FCP	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver fcp " -vserver Snapcreator -vserver clus3240rre
vserver fcp initiator show のコマンドを入力します	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver fcp initiator show" -vserver clus3240rre
vserver fcp show のコマンドです	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver fcp show" -vserver clus3240rre
SVM の FCP ステータス	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver fcp status" -vserver clus3240rre
vserver iscsi connection show	role create -role CRBAC_New -cmddirname 「 vserver iscsi connection show 」 -vserver clus3240rre
Vserver iSCSI	role create -role CRBAC_New -cmddirname 「 vserver iscsi 」 -vserver Snapcreator -vserver clus3240rre
vserver iscsi interface accesslist add	role create -role CRBAC_New -cmddirname 「 vserver iscsi interface accesslist add 」 -vserver clus3240rre
vserver iscsi interface accesslist show を実行します	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver iscsi interface accesslist show " -vserver clus3240rre
SVM iSCSI ノード名	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver iscsi nodename " -vserver clus3240rre

コマンドディレクトリ名	実行するコマンド
vserver iscsi session show のコマンド	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver iscsi session " show -vserver clus3240rre
vserver iscsi show のコマンドです	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver iscsi show " -vserver clus3240rre
SVM の iSCSI ステータス	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver iscsi status " -vserver clus3240rre
Vserver NFS	role create -role CRBAC_New -cmddirname 「 vserver nfs 」 -vserver Snapcreator -vserver clus3240rre
SVM の NFS ステータス	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver nfs status" -vserver clus3240rre
SVM のオプション	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver options " -vserver clus3240rre
vserver services unix-group create	role create -role CRBAC_New -cmddirname 「 vserver services name-service unix-group create 」 -vserver clus3240rre
vserver services unix-user create	role create -role CRBAC_New -cmddirname 「 vserver services name-service unix-user create 」 -vserver clus3240rre
vserver services unix-group show	role create -role CRBAC_New -cmddirname 「 vserver services name-service unix-group show 」 -vserver clus3240rre
vserver services unix-user show のコマンドを使用します	role create -role CRBAC_New -cmddirname 「 vserver services name-service unix-user show 」 -vserver clus3240rre
vserver show のコマンドです	role create -role CRBAC_New -cmddirname "vserver show " -vserver clus3240rre
ボリュームのオートサイズ	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume autosize " -vserver clus3240rre
volume clone create を実行します	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume clone create" -vserver clus3240rre
volume create を実行します	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume create" -vserver clus3240rre

コマンドディレクトリ名	実行するコマンド
ボリュームを削除します	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume destroy" -vserver clus3240rre
volume efficiency off コマンドを実行します	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume efficiency off " -vserver clus3240rre
ボリューム効率化	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume efficiency on " -vserver clus3240rre
volume efficiency show のコマンドです	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume efficiency show " -vserver clus3240rre
ボリューム効率化が開始されます	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume efficiency start" -vserver clus3240rre
ボリュームファイル	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume file" -vserver clus3240rre
volume file clone create を実行します	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume file clone create " -vserver clus3240rre
volume file show-disk-usage	role create -role bainew1 -vserver SnapCreator -cmddirname "volume file show -disk -usage" -access all
volume modify を使用します	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume modify" -vserver clus3240rre
ボリュームはオフラインです	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume offline " -vserver clus3240rre
volume show のコマンドです	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume show" -vserver clus3240rre
ボリュームサイズ	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume size" -vserver clus3240rre
volume snapshot create を実行します	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume snapshot create" -vserver clus3240rre
ボリュームのアンマウント	role create -role CRBAC_New -cmddirname "volume unmount " -vserver clus3240rre

SVM ロールを作成するための CLI コマンド

次の表に、新しい SVM ユーザのロールを作成するのに必要なコマンドを示します。

コマンドディレクトリ名	実行するコマンド
追加ユーザ	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "adduser" -vserver Snapcreator
event generate-autosupport-log を指定します	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "event generate-autosupport-log " -vserver Snapcreator
LUN のコメント	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "LUN comment " -vserver Snapcreator
lun create をクリックします	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 lun create 」 -vserver Snapcreator
lun delete	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "lun delete " -vserver Snapcreator
LUN ジオメトリ	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "LUN geometry" -vserver Snapcreator
LUN igroup add	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "LUN igroup add " -vserver Snapcreator
lun igroup create を追加します	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 lun igroup create 」 -vserver Snapcreator
LUN igroup セット	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 lun igroup set 」 -vserver Snapcreator
lun igroup show を参照してください	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "lun igroup show " -vserver Snapcreator
LUN マップ	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "LUN map " -vserver Snapcreator
lun mapping show	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "LUN mapping show " -vserver Snapcreator
lun modify を追加します	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "lun modify " -vserver Snapcreator
LUN の移動	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 lun move 」 -vserver Snapcreator

コマンドディレクトリ名	実行するコマンド
LUN はオフラインです	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 lun offline 」 -vserver Snapcreator</code>
LUN はオンラインです	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "LUN online " -vserver Snapcreator</code>
LUN のサイズ変更	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 lun resize 」 -vserver Snapcreator</code>
lun show をクリックします	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "lun show " -vserver Snapcreator</code>
LUN のマッピング解除	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "lun unmap " -vserver Snapcreator</code>
ネットワーク	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "network " -vserver SnapCreator</code>
ネットワーク接続	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 network connections 」 -vserver SnapCreator</code>
ネットワーク接続がアクティブです	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 network connections active 」 -vserver SnapCreator</code>
network connections listening show コマンドを使用します	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 network connections listening show 」 -vserver SnapCreator</code>
Network Interface の略	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 network interface 」 -vserver SnapCreator</code>
ネットワークルーティンググループ	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 network routing-groups 」 -vserver SnapCreator</code>
restore-file を選択します	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "restore-file " -vserver Snapcreator</code>
SnapMirror	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "snapmirror" -vserver SnapCreator</code>
バージョン	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "version" -vserver Snapcreator</code>

コマンドディレクトリ名	実行するコマンド
ボリューム	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname " volume</code>
ボリュームのオートサイズ	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 volume autosize 」 -vserver Snapcreator</code>
ボリュームクローン	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 volume clone 」 -vserver Snapcreator</code>
volume clone create を実行します	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 volume clone create 」 -vserver Snapcreator</code>
volume create を実行します	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "volume create " -vserver Snapcreator</code>
ボリュームを削除します	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "volume destroy " -vserver Snapcreator</code>
volume efficiency off コマンドを実行します	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 volume efficiency off 」 -vserver Snapcreator</code>
ボリューム効率化	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 volume efficiency on 」 -vserver Snapcreator</code>
ボリューム効率化が開始されます	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 volume efficiency start 」 -vserver Snapcreator</code>
volume efficiency show のコマンドです	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "volume efficiency show " -vserver Snapcreator</code>
ボリュームファイル	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname " volume file " -vserver Snapcreator</code>
ボリュームファイルクローン	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 volume file clone 」 -vserver Snapcreator</code>
volume file clone create を実行します	<code>role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 volume file clone create 」 -vserver Snapcreator</code>

コマンドディレクトリ名	実行するコマンド
volume modify を使用します	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "volume modify -vserver Snapcreator
ボリュームマウント	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 volume mount 」 -vserver Snapcreator
ボリュームはオフラインです	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "volume offline " -vserver Snapcreator
volume show のコマンドです	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "volume show " -vserver Snapcreator
ボリュームサイズ	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname " volume size " -vserver Snapcreator
volume snapshot create を実行します	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 volume snapshot create 」 -vserver Snapcreator
ボリューム Snapshot の削除	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 volume snapshot delete 」 -vserver Snapcreator
ボリューム Snapshot リストア	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 volume snapshot restore 」 -vserver Snapcreator
ボリュームのアンマウント	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "volume unmount " -vserver Snapcreator
vserver export-policy rule show	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver export-policy rule show 」 -vserver Snapcreator
vserver export-policy show のコマンドを入力します	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver export-policy show 」 -vserver Snapcreator
SVM FCP	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname "vserver fcp " -vserver Snapcreator
vserver fcp initiator show のコマンドを入力します	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver fcp initiator show 」 -vserver Snapcreator

コマンドディレクトリ名	実行するコマンド
vserver fcp show のコマンドです	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver fcp show 」 -vserver Snapcreator
SVM の FCP ステータス	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver fcp status 」 -vserver Snapcreator
Vserver iSCSI	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver iscsi 」 -vserver Snapcreator
vserver iscsi connection show	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver iscsi connection show 」 -vserver Snapcreator
vserver iscsi interface accesslist add	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver iscsi interface accesslist add 」 -vserver Snapcreator
vserver iscsi interface accesslist show を実行します	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver iscsi interface accesslist show 」 -vserver Snapcreator
SVM iSCSI iSNS クエリ	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver iscsi isns query 」 -vserver Snapcreator
SVM iSCSI ノード名	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver iscsi nodename 」 -vserver Snapcreator
vserver iscsi session show のコマンド	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver iscsi session show 」 -vserver Snapcreator
vserver iscsi show のコマンドです	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver iscsi show 」 -vserver Snapcreator
SVM の iSCSI ステータス	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver iscsi status 」 -vserver Snapcreator
Vserver NFS	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver nfs 」 -vserver Snapcreator

コマンドディレクトリ名	実行するコマンド
SVM の NFS ステータス	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver nfs status 」 -vserver Snapcreator
vserver services dns hosts show のコマンドを入力します	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver services name-service dns hosts show 」 -vserver SnapCreator
vserver services unix-group create	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver services name-service unix-group create 」 -vserver Snapcreator
vserver services unix-group show	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver services name-service unix-group show 」 -vserver Snapcreator
vserver services unix-user create	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver services name-service unix-user create 」 -vserver Snapcreator
vserver services unix-user show のコマンドを使用します	role create -role VSERVERRBACROLE_New -cmddirname 「 vserver services name-service unix-user show 」 -vserver Snapcreator

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。